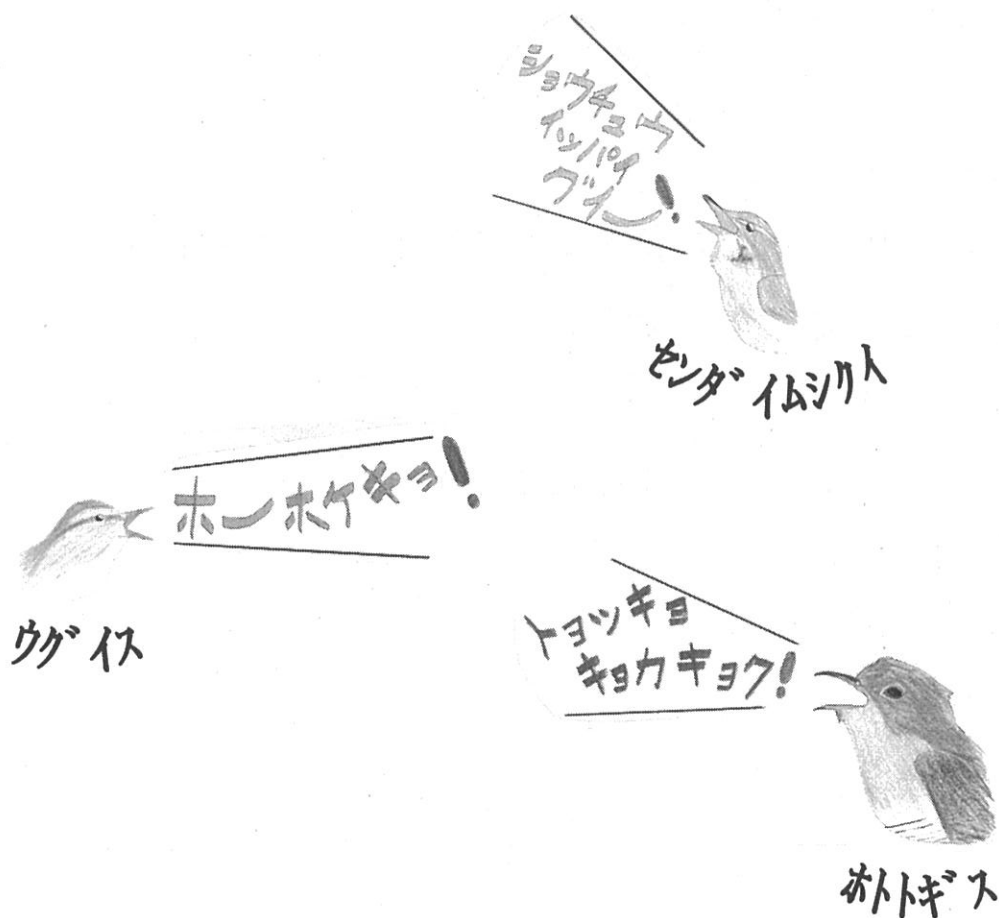


平成 27 年度 (2015 年度)

# 横浜自然観察の森 事業概要書



第 26 号

横浜自然観察の森

## 目次

(1) 横浜自然観察の森の概要	1
沿革、施設、自然環境、組織図、施策上の位置づけ	
(2) 施設運営理念と長期・中期運営計画	10
(3) 平成26年度事業報告	16
(4) 平成27年度事業計画	21
■資料編	24
横浜自然観察の森の開園年からの利用者数変化	25
代表的な成果・発行物等	26
平成27年度主催行事予定表	27
横浜自然観察の森友の会について	31

# (1) 横浜自然観察の森の概要

●施設名：横浜自然観察の森

●所在地：〒247-0013 神奈川県横浜市栄区上郷町1562-1

●事業面積：45.3ha

●事業主体：横浜市環境創造局

●関係条例：横浜自然観察の森条例（昭和60年10月15日制定 条例第33号）

（設置）第1条 自然環境の中で植物及び昆虫、野鳥等の小動物と触れ合い、これらの観察を通じて自然保護思想の普及及び向上を図るため、（中略）設置する。

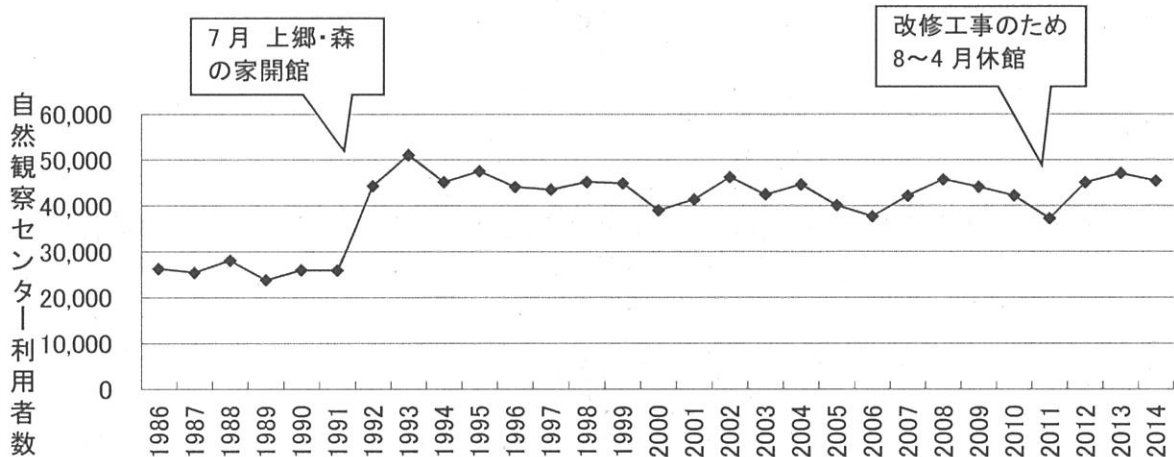
（事業）第2条 (1) 自然観察その他自然に親しむ学習活動の指導に関すること。  
 (2) 自然観察の調査及び研究に関すること。  
 (3) 自然保護活動の育成及び指導に関すること。  
 (4) その他前各号に準ずる事業

●管理：公益財団法人 日本野鳥の会（会長：柳生博）に以下の事項を委託。

- (1) 自然観察の森の利用者に対する自然観察の指導及び相談に関すること。
- (2) 自然観察の森の施設のうち、特に環境を保全する必要のある施設として市長が指定した施設の維持管理に関すること。
- (3) 自然観察の森の環境調査に関すること。
- (4) その他前各号に準ずる事務

●年間利用者数（平成26年度）

- ・ 自然観察センター利用者 約 45,000人（開館日数 307日間）
- ・ 入園者（推計） 約136,000人



# 1. 沿革

## 沿革

環境庁のモデル事業である全国10か所の「自然観察の森事業」の一つに選定され、昭和59(1984)年度から環境庁、神奈川県、横浜市の3者により施設整備が行なわれ、昭和61(1986)年3月に開園した。

**【自然観察の森事業】** 自然観察の森は、自然の喪失が著しい大都市及びその周辺において、身近な自然との触れ合いを求める国民のニーズが急速に高まっていることにかんがみ、三大都市圏及び政令市等において身近な自然との触れ合いを促進するための拠点をモデル的に整備し、自然保護教育を推進して行こうとするものである。

この事業は、小動物等との触れ合いを通じて、自然の仕組みについての理解を深め、自然に対する愛情とモラルを育くむため、昆虫や野鳥の誘致林など、小動物の生息環境の創出を図るとともに、自然環境の拠点となるネイチャー・センターやその他自然観察路、観察小屋等の施設を総合的に整備することを内容としている。(環境庁 昭和60年版環境白書)

全国で次の10か所が整備され、それぞれの自治体により運営されている。

仙台市太白山自然観察の森 (仙台市、宮城県)	桐生自然観察の森 (桐生市、群馬県)
牛久自然観察の森 (牛久市、茨城県)	横浜自然観察の森 (横浜市、神奈川県;当園)
豊田市自然観察の森 (豊田市、愛知県)	栗東自然観察の森 (栗東町、滋賀県)
和歌山市自然観察の森 (和歌山市、和歌山県)	姫路市自然観察の森 (姫路市、兵庫県)
おおの自然観察の森 (廿日市市、広島県)	福岡市油山自然観察の森 (福岡市、福岡県)

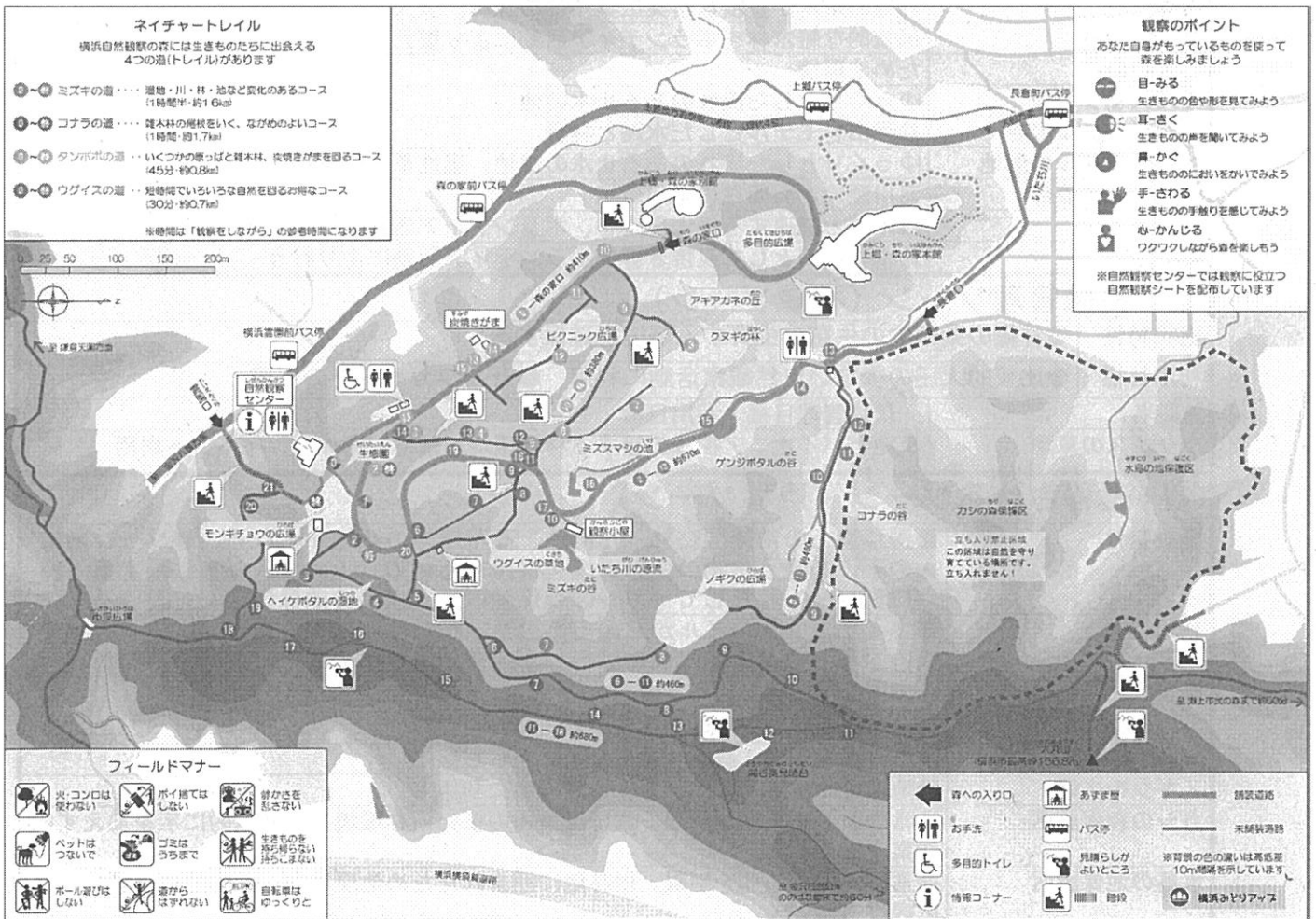
昭和58年 (1983)		環境庁の「自然観察の森」事業の初年度事業として基本計画に着手。整備費は環境庁、神奈川県、横浜市が負担
昭和59年 (1984)	5月	施設整備計画決定
	8月	事業計画決定
	11月	第1期工事 (~昭和60年3月)
昭和60年 (1985)	8月	第2期工事 (~昭和61年3月)
昭和61年 (1986)	3月27日	開園・条例施行日
	12月	第3期工事 (~昭和62年3月)
昭和62年 (1987)	3月	全面オープン
昭和63年 (1988)	10月	横浜自然観察の森友の会設立
平成1年 (1989)	4月	環境庁「ふるさといきものの里」認定
平成4年 (1992年)	7月	隣接地に宿泊のできる市民利用施設「上郷・森の家」が開館
平成8年 (1996)		開園10周年・第1回「全国自然観察の森運営協議会」主催
平成12年 (2000)	3月	開園以来の来館者累計50万人突破
平成13年 (2001)		開園15周年で記念イベントを開催
平成17年 (2005)	2月	開園以来の来館者累計70万人突破
	3月	横浜自然観察の森保全管理計画を策定
平成18年 (2006)		開園20周年で記念イベントを開催
平成20年 (2008)	11月	「全国自然観察の森運営協議会」開催
		横浜自然観察の森友の会設立20周年で記念イベントを開催
平成21年 (2009)	4月	横浜市みどり税に基づいた「横浜みどりアップ計画事業」支援開始
平成22年 (2010)	3月	「大丸山近郊緑地特別保全地区」に指定される(首都圏近郊緑地保全法に基づく)
平成23年 (2011)	9月	自然観察センター改修工事 (~平成24年3月)
平成24年 (2012)	4月28日	自然観察センターリニューアル・オープン
平成25年 (2013)	3月	横浜自然観察の森保全管理計画書(2012-13)を策定

## 2. 施設

### 1) 自然観察センター

木造平屋建て、面積577㎡。横浜自然観察の森の活動と情報提供の拠点となる中心施設。平成23年度、「横浜みどりアップ計画」新規拡充施策に基づき、より多くの市民が森を訪れ、森を知り楽しむことができるウエルカムセンターとして位置づけられた。そして環境教育の機能拡充と利便性向上を目的とした改修工事を行い、平成24年度にリニューアル・オープンを果たした。

- レンジャーカウンター／レンジャーが常駐し、自然についての相談受付、団体受付、自然観察道具などの貸し出しや、園内の案内地図、セルフガイドマップ、行事予定等の配布を行う。
- 観察コーナー／窓外の生態園の動植物を観察できる。
- 展示コーナー／「森の情報エリア」で最新の自然情報を提供。「森の展示エリア」で園内の自然のなりたちを紹介する。
- 図書コーナー／図書・資料の閲覧(友の会会員には貸出し可)。自然関連のイベント情報を掲示、配布。
- 研修室／106㎡ スクリーン、映像、音響設備あり。100人を収容できる。2室に分けて使用も可能。自然観察センター、友の会主催行事および環境創造局主催行事により利用。またこれ以外に自然観察の森の設置目的に適合する内容で、非営利の場合に限り、団体に無料で貸し出し。他に利用のない時は、一般利用者の休憩利用のため後側部分を開放する。
- ボランティア活動拠点(別棟)／横浜自然観察の森友の会のボランティア活動の中心的な拠点施設として行事や展示、会合、事務作業に使用。愛称「ごろすけ館」。



## 2) 環境施設

### ① 自然観察センターゾーン

施設特性	●自然観察センターや水道、広場など便利施設を置く ●多人数での利用が可能
利用目標	●自然観察センターと一体となって来訪者が短時間で集約した自然観察が体験できる環境を維持 ●原体験活動 ●オープンスペースの団体利用 ●情報提供、自然観察などのイベントの拠点 ●ボランティア活動の場 ●多様な生物が生息できる環境の管理方法開発のためのデータ収集
施設名	環境管理目標・利用目標
生態園	雑木林、照葉樹林の見本園
モンキョウの広場（一部）	低茎草本草地。多人数の休憩や自然観察

### ② 二次林で遷移をとめるゾーン（雑木林管理ゾーン）

施設特性	●低茎草本や高茎草本の草地、遷移途中の常落混交林、雑木林、スギ人工林、湿地、小川など、モザイク状に組み合わさった多様な生息環境からなる
利用目標	●自然観察活動、セルフガイドでの利用 ●ボランティア参加による二次林の更新を行なう ●環境管理作業による草地の維持
施設名	環境管理目標・利用目標
モンキョウの広場	低茎草本草地。多人数の休憩や自然観察
アキアカネの丘	乾性・湿性の草地と水たまりのできる凹地。多人数の休憩や自然観察
ピクニック広場	低茎草本と高茎草本からなる草地。多人数の休憩や自然観察
桜林	林床の草本が豊富な落葉広葉樹林の疎林。少人数の自然観察
クヌギの林	伝統的な雑木林をボランティア活動により復元
ミズキの谷	ため池環境
ミズスマシの池	ゆっくりとした流れのある止水の池
ゲンジボタルの谷	谷戸田をモデルとした水路と林縁
ヘイケボタルの湿地	ゆっくりとした流れのある止水の湿地、湿性草本の草地
いたち川源流部	河川源流と斜面林の水辺環境
畑	雑木林と関連する畑地環境を、ボランティア活動により復元
炭小屋	雑木林利用として炭焼き等をボランティア活動により行う

### ③ 林縁管理ゾーン（林縁ゾーン）

施設特性	●林縁の動植物の生息・生育する環境を確保する
利用目標	●比較的人圧の少ない自然観察活動に利用 ●セルフガイドでの利用
施設名	環境管理目標・利用目標
ウグイスの草地	草地とパイオニア樹種の接する林縁環境を維持。原体験、イベント利用

### ④ 遷移させるゾーン（遷移ゾーン）

施設特性	●遷移途上の常落混交林、ため池、高茎草本の草地からなる ●ゾーン内に人の干渉を嫌う生物の生息環境を保護するため、人の立入りを制限する「特別観察ゾーン」として「カシの森保護区」「水鳥の池保護区」を設ける
利用目標	●ネイチャートレイルからの自然観察を行なう ●保護区は通常の立入りを制限する ●基本的に伐採は行わず、植生は自然の変化（遷移）に委ねる
施設名	環境管理目標・利用目標
コナラの林	落葉広葉樹林、常落混交林をトレイルから観察
コナラの谷	渓谷の流水環境、斜面林をトレイルから観察
ノグクスの広場	砂地環境の維持。イベント、自然観察に利用
カシの森保護区	通常の人立入りを制限。常緑広葉樹の多い樹林環境を、基本的に手を加えずに観察する
水鳥の池保護区	通常の人立入りを制限。樹林地に囲まれたため池環境を、基本的に手を加えずに観察する

### 3) ネイチャートレイル（自然観察路）

自然観察センターを起点とした、4つのネイチャートレイルを設置し道標や解説板を整備。自然観察センターで配布するガイドマップやセルフガイドシートにより、来園者に観察ポイントを示している。

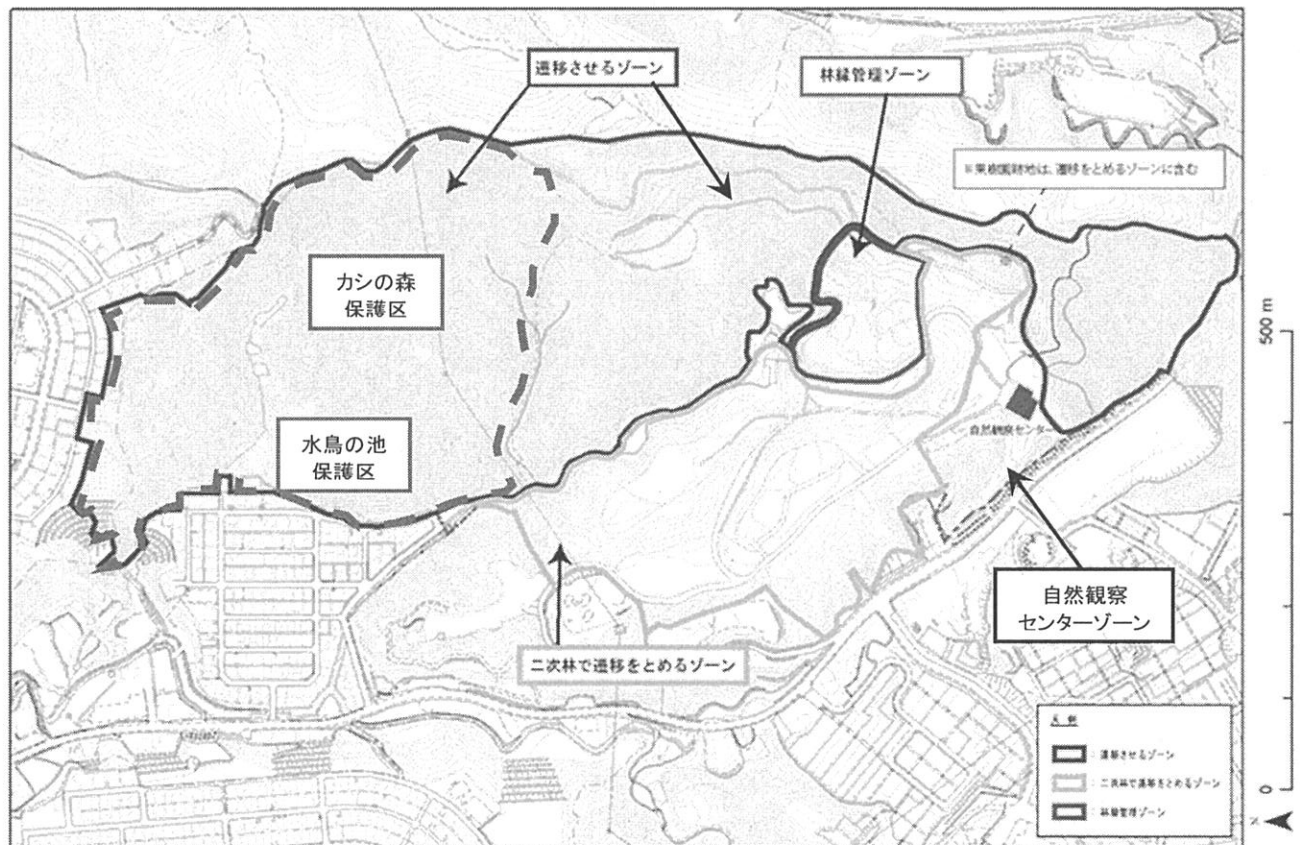
コース名	距離	時間	特色
ミズキの道	約1.6km	1時間30分	湿地、砂地、林、川、池を通る環境と起伏に富んだコース
コナラの道	約1.7km	1時間	主尾根の常落混交林を一周するコース。途中の展望がよい
タンポポの道	約0.8km	45分	草地と、市民参加で管理する雑木林・炭小屋を通るコース
ウグイスの道	約0.7km	30分	湿地、林縁、池、草地等様々な環境を短時間でめぐるコース

### 4) 周辺緑地へのハイキングコース

ハイキングコースにより、円海山・北鎌倉近郊緑地保全地区等の一帯の緑地と接続。北は金沢自然公園や4つの市民の森（瀬上、氷取沢、釜利谷、金沢）、能見堂緑地等、南は市境を越えて鎌倉市の天園周辺の歴史的風土保存区域等まで歩くことができる。

### 5) ゾーニング図

「横浜自然観察の森保管理計画書(2012-2013)」において、自然環境の保全と管理のために、次の4つのゾーンにゾーニングされており、これに基づく保全管理を行なっている。



## 6) 施設利用案内

- 入園料……無料
- 開館時間……午前9時から午後4時30分
- 休館日……毎週月曜日(祝日の時は翌日)及び年末年始
- 団体利用……10人以上でご利用の場合2週間前までに、窓口または電話で申し込み

### 【 対応サービスメニュー 】

- ① 施設概要、自然の楽しみ方に関するレクチャー(10分～20分)
- ② プログラムの相談・アドバイス
- ③ プログラム作成ヒント・園内マップなどの資料提供
- ④ 双眼鏡やルーペなどの自然観察道具・紙芝居・施設紹介DVDなどの貸し出し
- ⑤ 研修室(100人収容)の貸し出し
  - ・ 使用料は無料。
  - ・ 自然観察の森の設置目的に適合する内容で、非営利である利用に限る。
  - ・ 自然観察センター、友の会主催行事および環境創造局主催行事を優先する。
  - ・ 原則2週間前までに申請書をみどりアップ推進課へ提出、許可書を発行する。
  - ・ 学校による教育目的での利用は申請不要。
  - ・ 使用状況の確認は自然観察センターへ問い合わせる。
  - ・ 定期的な利用は、年度の始めにまとめて申請することができる。





#### 4) 植生・植物相

植物は約910種を確認

気候帯は暖温帯に属し、極相は照葉樹林(シイタブ林)であるが、現在は断片的に残存するのみで、森林の大部分は落葉広葉樹の二次林(ヤマザクラ林、コナラ林、ミズキ林、イロハモミジケヤキ林等)となっている。スギ林、ヒノキ林、竹林といった人工林も小面積見られる。照葉樹林帯としては北部に位置することもある。高木、低木、林床植物ともに構成種数はそれほど多くないが、林床には数種のラン科植物も見られる。基盤岩上にあるコナラ林と混交林の林床に、山地性のカントウカンアオイ、スハマソウが隔離的に分布する。低温の地下水の浸潤する溪谷内では、ウワバミソウ、ヤブデマリ等、冷温帯に属する種が生育する。崖上には多湿を好むケイワタバコの群落が見られる。

地下水のしみ出す凝灰質泥岩上の小湿地ではシランの群落が見られる。広場や草地は過去の造成の影響を受けている個所がほとんどで、ススキ群落、シバ草地等が草刈りの管理により成立しているが、元々の草地の植生が残存していると思われる個所もあり、イヌセンブリ等の希少種も見られる。

ミズキの池、水鳥の池、ヘイケボタルの湿地は施設整備時に環境創出のために造成された湿地で、栄区周辺や県内の湿地から約35種の水生植物を移植している。

●裸子植物・被子植物 751種 ●シダ植物 45種 ●コケ植物 114種

#### 5) 動物相 ①脊椎動物

在来種約190種を確認

哺乳類はタヌキ、ニホンイタチ、ノウサギ等の中型種、アズマモグラ、アカネズミ等の小型種が生息する。在来種は9種で、他に台湾リス、アライグマ、ハクビシン等の外来種が生息する。

鳥類はこれまでに152種の在来種が記録されており、このうち約20種が園内、または周辺で繁殖している。この中には都市周辺では少なくなったフクロウやホトトギス、カワセミ等が含まれている。渡り鳥の中継地としての価値も高く、1987年には日本で初めてウタツグミの渡来が観察された。外来種としてコジュケイ、ガビチョウ等が生息する。

爬虫類はニホンマムシ等のヘビ類やニホンカナヘビ等が生息し、外来種としてミシシッピアカミミガメ等の記録がある。両生類ではヤマアカガエルなどのカエル類が生息し、外来種としてウシガエルが生息する。魚類はモツゴ、アブラハヤ等が記録されている。

一部の外来種は個体数を増やしており、在来種への影響も認められている。

●哺乳類 9種\* ●鳥類 152種\* ●爬虫類 12種\* ●両生類 7種\* ●魚類 8種 (\* 外来種を除く)

#### ②昆虫

約2,450種を確認・調査継続中

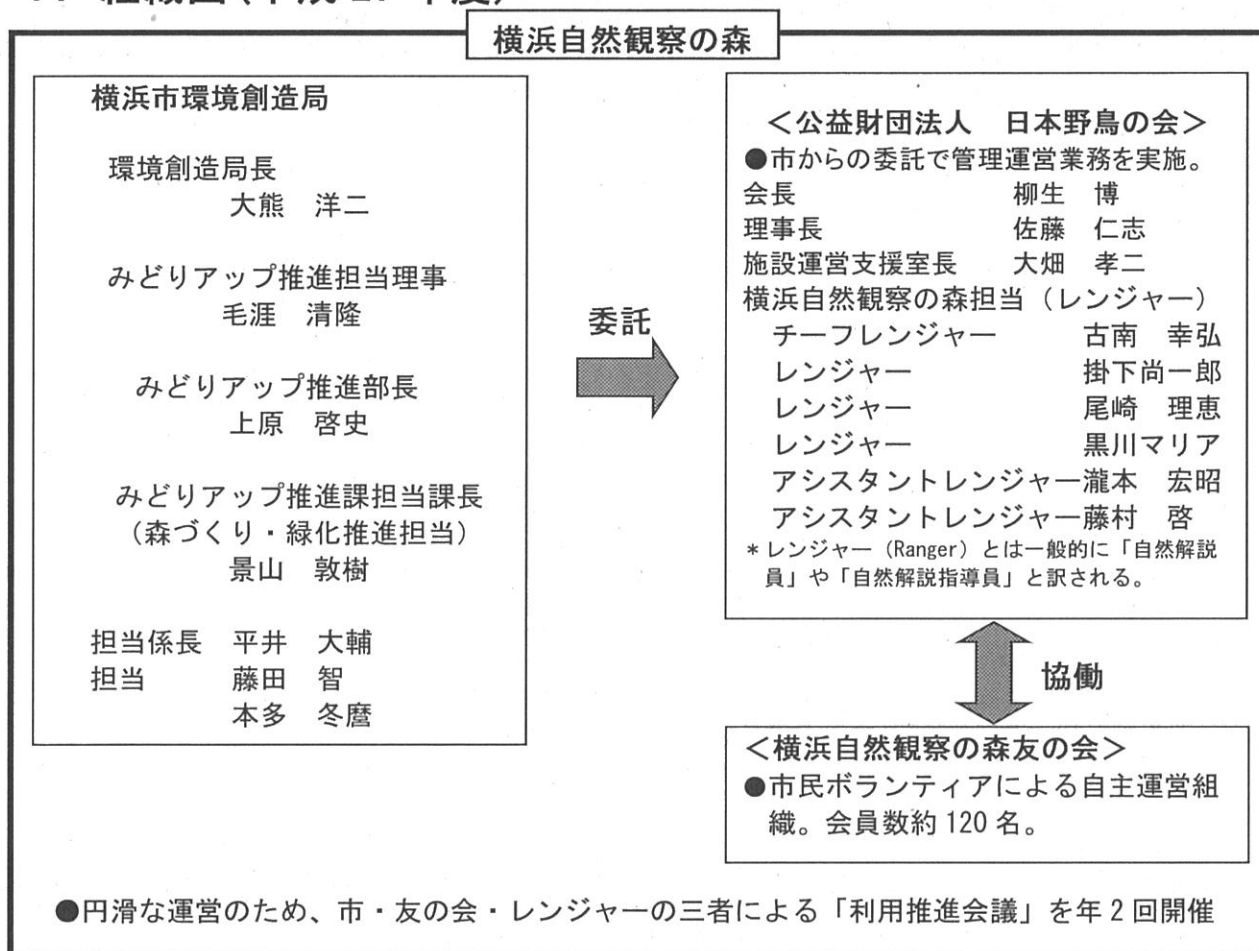
三浦半島の生息種と共通する暖地性・海洋性の種が多いが、北部の多摩丘陵と共通する山地性の種も見られ、多彩な昆虫相を形成している。暖地性種では、クチキコオロギ、ズビロキマワリモドキ等が分布の北限に近いと考えられる。また山地性種ではウシカメムシ、ヤツメカミキリ等が観察されている。樹林地にはアカシジミ等の低地落葉樹林性の種も生息する。

草地には人為的な植生や丈の管理により、様々な草地性の昆虫が生息しており、直翅類ではカヤヒバリ、エゾツユムシといった分布上注目される種も生息する。また鱗翅目では、円海山緑地としては他にあまり生息の見られない草地性のジャノメチョウが多く見られる。

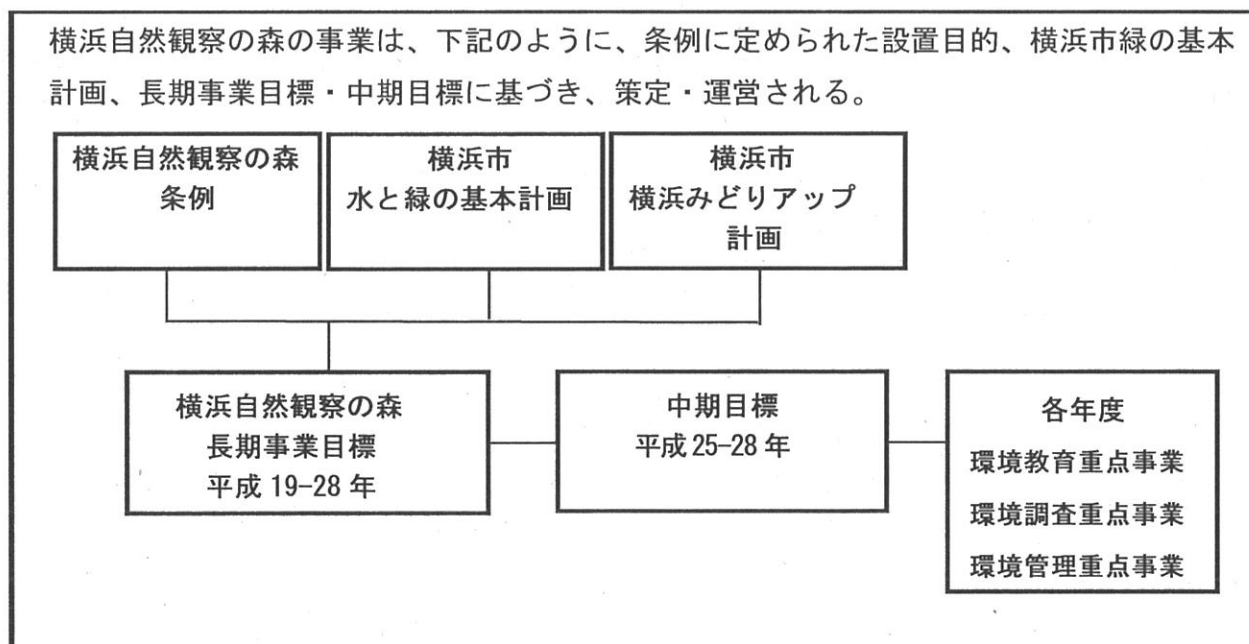
水域では、流水には都市開発で激減したゲンジボタルやアサヒナカワトンボ等も見られる。創出された湿地には止水性のトンボ類や、近隣の生息地から移入放流したヘイケボタルが安定的に生息している。

●カメムシ目 156種 ●トンボ目 34種 ●バッタ目 50種 ●カマキリ目 5種  
●ナナフシ目 3種 ●鱗翅目蝶類 57種 ●甲虫目 1197種 など

#### 4. 組織図(平成 27 年度)



#### 5. 施策上の位置づけ



## (2) 施設の運営理念と長期・中期目標

### 1. 横浜自然観察の森の運営理念

○横浜自然観察の森条例（昭和60年10月制定）

○目的（第1条）自然環境の中で植物及び昆虫、野鳥等の小動物と触れ合い、これらの観察を通じて自然保護思想の普及及び向上を図るため、横浜自然観察の森を（中略）設置する。

○事業（第2条）(1) 自然観察その他自然に親しむ学習活動の指導に関すること。

(2) 自然観察の調査及び研究に関すること。

(3) 自然保護活動の育成及び指導に関すること。

(4) その他前各号に準ずる事業

### 長期・中期の運営計画の目標

変化していく社会環境の動きに合わせ、社会の施設に寄せられるニーズの変化に答えるため、10年間を期間とする長期目標、3年間を期間とする中期目標を設定している。

## 2. 長期事業目標 平成19～28年度

横浜自然観察の森が目指す姿として、「いきもののにぎわいのある森」\*1づくりを継続し、横浜市、レンジャー\*2、ボランティアグループ横浜自然観察の森友の会が協働して、次のことを進めます。

### ●仲間づくりの拠点

環境保全ボランティア\*3の育成を継続していきます。そのボランティアとともに、近隣等との情報交換や人材交流などを通して、水と緑に関心を持った仲間を増やします。また、将来市内の環境保全を担っていく子どもが自然や命を大切に感じる感性を育むための場を提供します。

### ●にぎわいのある森づくりの拠点

市内最大の緑地である円海山周辺の緑地において、モニタリングや順応的管理\*4を先駆的に行っているモデル地区としてこれらの実例を示し、自然に関する情報を提供していきます。

\*1 いきもののにぎわいのある森：その地域にもとから生息している多様な生物が、本来のつながりをもって生息するための様々な環境が保全された森のこと。

\*2 レンジャー：環境教育・環境保全・ボランティアコーディネートの専門家。

\*3 環境保全ボランティア：環境調査・環境管理・環境教育の関連性を理解して行動する市民。

\*4 順応的管理：調査の結果を踏まえて管理方法等を見直しながら管理していくこと。

### 3. 中期目標 平成 25～28 年度

#### ●位置づけ

- ・長期事業計画（平成 19～28 年度）の最終期間であり、平成 28 年に開園 30 周年を迎えることを踏まえ、事業の成果を評価し、次の長期事業計画につなげていく期間と位置付ける。
- ・横浜みどりアップ計画の一環で実施されたウエルカムセンター機能の付加（2012 年 4 月）、b プラン（2011 年 4 月）の一環で策定された「つながりの森構想（2012 年 5 月）」、「横浜つながりの森プロモーション」計画を受け、横浜市南部地域最大の緑地である、「つながりの森」コア区域の円海山周辺のウエルカムセンターとしての位置づけを認識する。
- ・生物多様性条約第 10 回締約国会議（2010 年）で採択された新戦略計画 2011-2020（愛知目標）と 2012 年に策定された生物多様性戦略（2012-2020）を踏まえ、特に、以下の目標について注目する。生物多様性の社会における主流化、侵略的外来種の防除、生物多様性の保全に寄与する地域の適切な保全・管理、科学的基盤の強化。

#### ●仲間づくりの拠点として

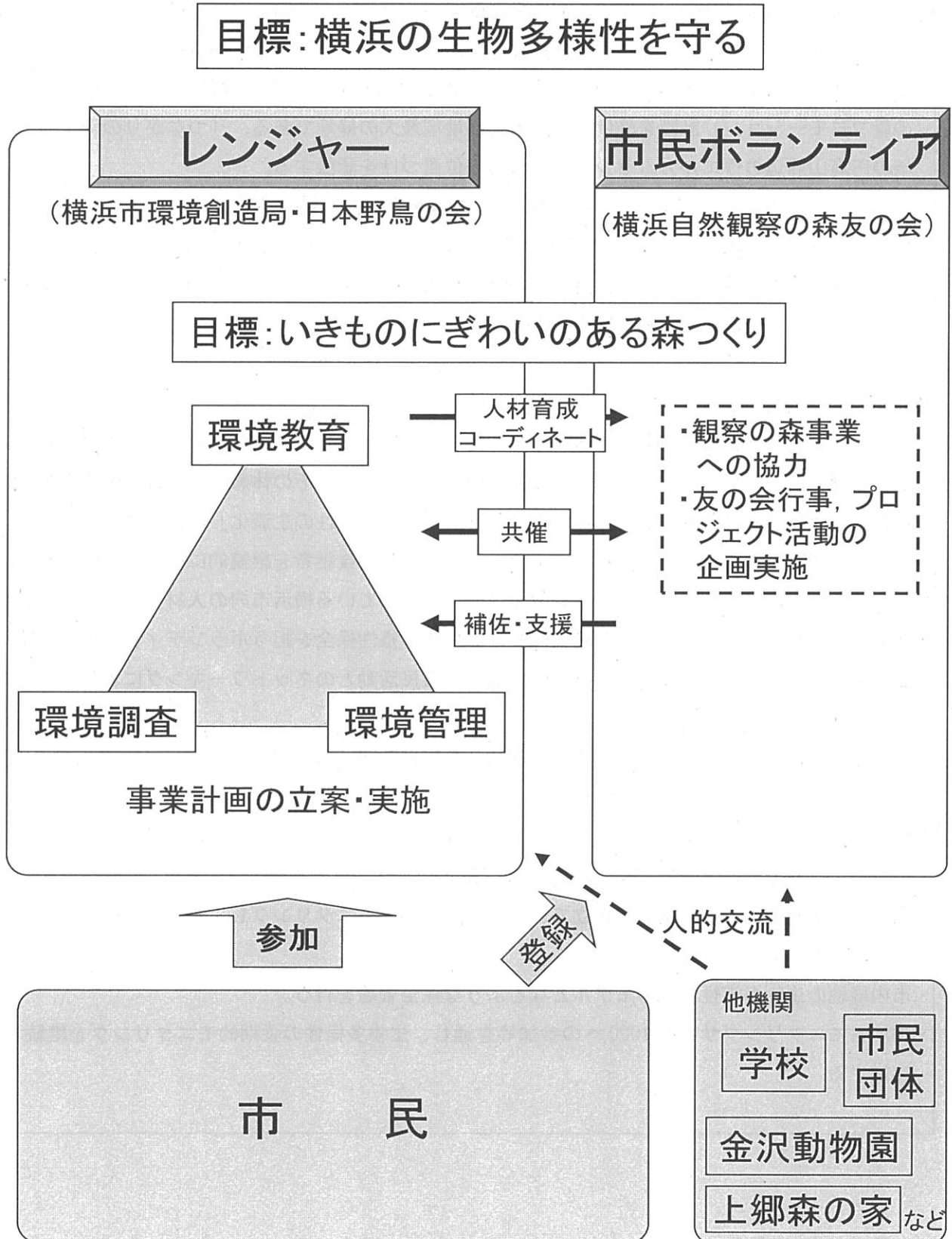
- ・つながりの森コア区域の円海山周辺のウエルカムセンターとして、つながりの森の生物多様性の価値と魅力について横浜市の内外に広くの広報、普及啓発し、その体感、感動の場を広く市民に提供し、生物多様性条約の愛知目標に掲げられた「生物多様性の主流化」に寄与する。
- ・横浜自然観察の森友の会を中心としたボランティア活動の後継者を継続的に確保し、活動を永続させるとともに、横浜みどりアップ計画の中で行なわれている横浜市内の人材養成との有機的な連携をはかり、特につながりの森地域における生物多様性保全を担うボランティア活動の支援に貢献する。またいるか丘陵といった広域における市民活動とのネットワーキングにより、ボランティア活動を活性化する。
- ・学校教育、地域コミュニティや企業とも連携した環境教育、環境保全活動を行なう。

#### ●にぎわいのある森づくりの拠点として

- ・横浜自然観察の森保全管理計画（2013 年 3 月策定）に基づき、園内の生物多様性の保全と回復のための保全管理活動の実施計画を立て、実行し、効果をモニタリングし、その結果を計画にフィードバックする（順応的管理）。
- ・市内緑地の生物多様性保全のモデルとなるような保全管理を行う。
- ・環境省モニタリングサイト 1000 への参加等を通じ、生物多様性の長期的モニタリングを継続して実施する。

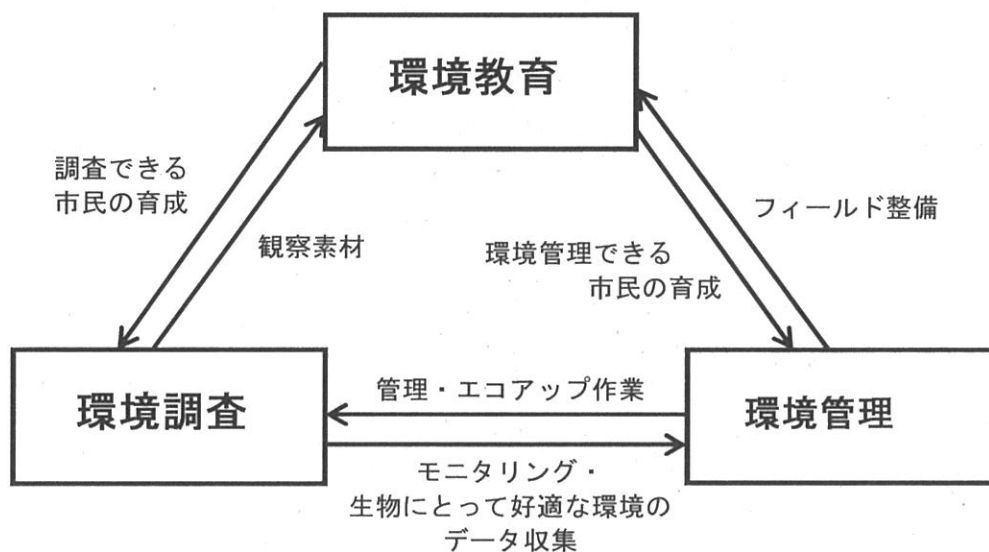
#### 4. 事業デザイン

##### 1) 全体事業デザイン

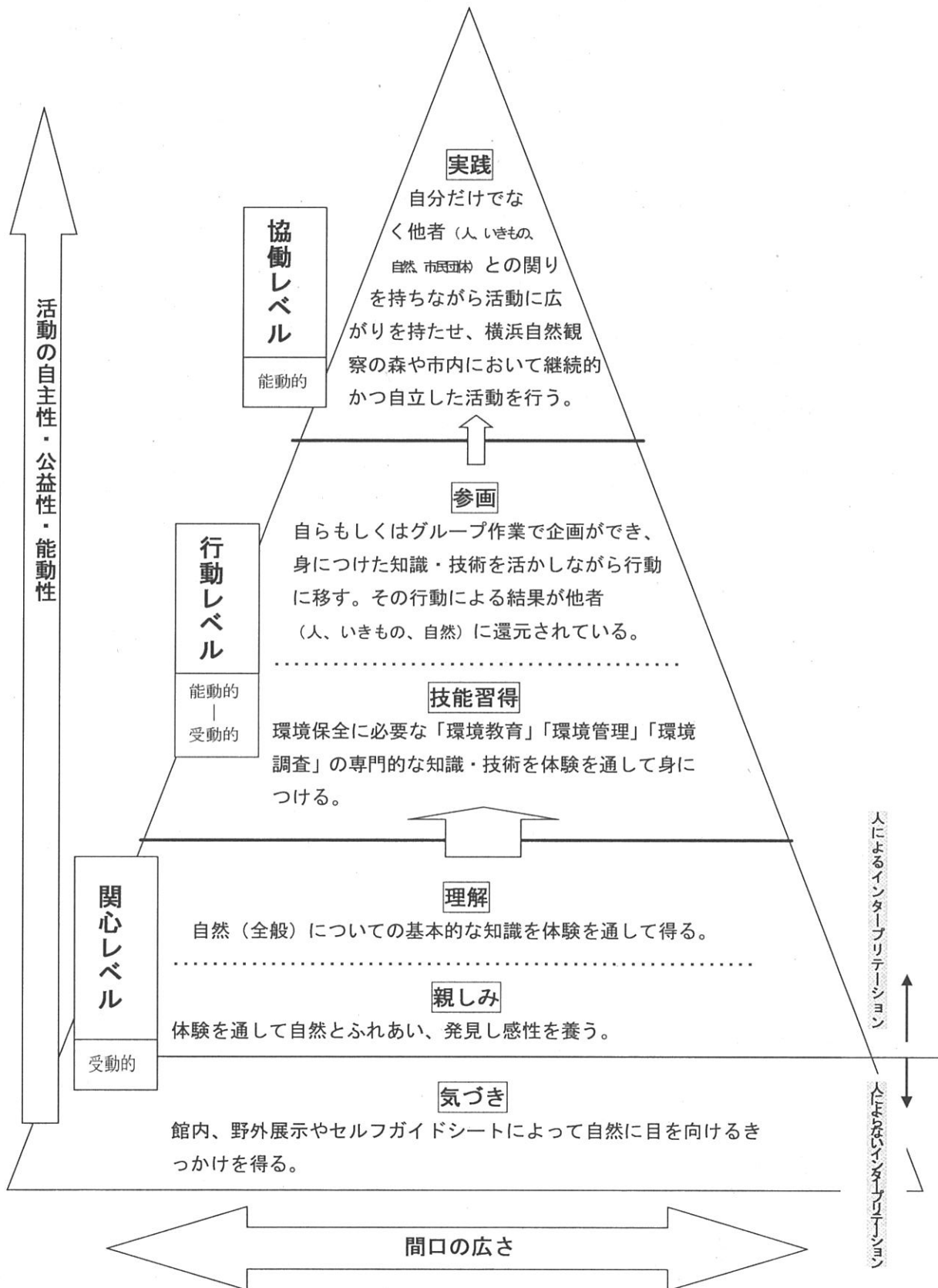


## 2) 3つの事業分野の位置づけと内容

中期目標を達成するため、「環境教育」「環境調査」「環境管理」の3つの事業分野を柱とし、相互に関連を持たせつつ、“身近な自然環境の保全”及び“自然保護教育”の拠点として『いきもののにぎわいのある森』を目指します。



### 3) 環境教育デザイン





## 4) 事業詳細

### 環境教育

レンジャーによる自然解説等対応：

来園者対応(個人来園者、団体来園者、視察、学生・研究者等)

行事実施 関心レベル：幼児向け原体験行事・各種観察会

行動レベル：講習会

協働レベル：ボランティア体験行事

展示による自然解説：

館内展示(年間展示、企画展示)

野外展示(野外解説板・トレイルサインメンテナンス)

セルフガイド対応(セルフガイドシート設置)

環境関連情報提供

協働推進のためのボランティアコーディネート：

友の会対応(事務局・プロジェクト活動の運営補助・調整)

施設ボランティア対応

広報： 定例広報誌・行事予定・チラシ作成・ホームページ作成・マスコミ利用

ウエルカムセンター事業：

親子向けの小学生向け調査管理体験行事・体験学習実施校へのモデル授業・企業の環境CSR活動対応等

### 環境調査

モニタリング

：環境指標調査(環境写真記録・指標生物調査)

環境管理効果測定調査(林管理予定地の生物調査)

環境教育効果測定調査

生物保全基礎調査

：保全計画(林管理予定地の保全管理計画策定)

希少植物調査 外来種調査

観察資源調査

：自然情報収集調査

### 環境管理

「横浜自然観察の森保全管理計画書」に基づき、「生きもののにぎわいのある森」をめざして、次の管理を行う。

・利用者のための管理

■施設点検：利用者の安全を図るために、園内施設について点検。危険箇所に対応する。

■園路巡回：台風等の災害発生時や積雪等の被害が予測される場合等、適宜園内を巡回し被害状況や危険個所をチェックし、被害箇所に対応する。

■施設保守管理：利用者が快適に利用できるよう、園路、側溝、サインやベンチ等施設の保守管理を行う。

・生物多様性保全のための管理：草地、樹林地、湿地等において、生物の生息環境を維持・向上させるための管理を行う。

# (3) 平成 26 年度 事業報告

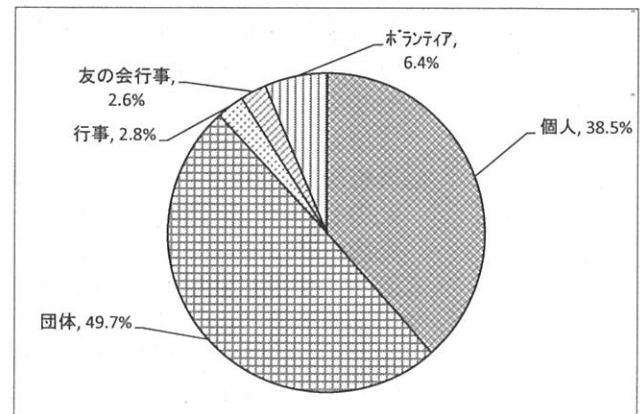
## 1. 利用状況

■自然観察センター利用者数 合計 45,489 人  
(前年度 47,098 人 前年度比 97%)

■入園者数(推定)約 13.6 万人 (入館者数の約 3 倍)

■自然観察センター利用者内訳  
 入館者数 計 42,570 人  
 (内訳) 個人利用者 17,499 人  
 団体利用者 22,592 人 (387 団体、  
 うちレクチャー実施 9,124 人 116 団体)  
 行事参加者 1,279 人 (25 回)  
 友の会行事参加者 1,200 人 (103 回)

\*自然観察センターを 307 日間開館



平成26(2014)年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入園者数(推定)	7,890	21,447	15,261	12,153	5,829	12,939
センター利用者数総計	2,630	7,149	5,087	4,051	1,943	4,313
前年同期比(%)	91%	99%	79%	89%	94%	95%
入館者合計	2,351	6,917	4,886	3,785	1,699	4,085
内訳						
個人利用者	1,682	3,226	921	1,066	1,116	1,326
団体利用者	555	3,557	3,217	2,588	481	2,618
(団体数)	16	40	52	43	12	35
(対応団体数)	2	19	21	27	4	9
行事参加者	6	0	678	31	47	76
友の会行事参加者	108	134	70	100	55	65
ボランティア合計	279	232	201	266	244	228
内訳						
友の会ボランティア	277	216	174	214	183	213
施設ボランティア	2	16	27	52	61	15
センター利用者数累計						
2014年度累計	2,630	9,779	14,866	18,917	20,860	25,173
前年同期比(%)	91%	97%	90%	90%	90%	91%
開園累計	1,119,902	1,127,051	1,132,138	1,136,189	1,138,132	1,142,445

平成26(2014)年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
入園者数(推定)	12,294	15,123	11,601	7,164	7,791	6,975	136,467
センター利用者数総計	4,098	5,041	3,867	2,388	2,597	2,325	45,489
前年同期比(%)	103%	82%	131%	90%	179%	110%	97%
入館者合計	3,878	4,782	3,620	2,166	2,328	2,073	42,570
内訳							
個人利用者	1,251	1,870	1,038	1,103	1,557	1,343	17,499
団体利用者	2,467	2,753	2,231	891	608	626	22,592
(団体数)	53	41	38	24	17	16	387
(対応団体数)	18	6	7	2	0	1	116
行事参加者	71	65	236	36	33	0	1,279
友の会行事参加者	89	94	115	136	130	104	1,200
ボランティア合計	220	259	247	222	269	252	2,919
内訳							
友の会ボランティア	203	208	207	195	188	237	2,515
施設ボランティア	17	51	40	27	81	15	404
センター利用者数累計							
2014年度累計	29,271	34,312	38,179	40,567	43,164	45,489	45,489
前年同期比(%)	92%	90%	93%	93%	96%	97%	97%
開園累計	1,146,543	1,151,584	1,155,451	1,157,839	1,160,436	1,162,761	1,162,761

## 2. 平成26年度重点項目

### ■重点項目

1. 保全管理計画のフォローアップを通じ、雑木林管理ゾーンを中心に、順応的管理の実施を継続する。
2. ウェルカムセンター事業の一環として、宿泊体験学習における自然体験学習を深めるために、モデルプログラム開発に着手する。

### ■事業成果

1. 前年度市民参加により策定した「桜林保全管理実施計画」に基づいて、雑木林管理ゾーン内の桜林においてモニタリングのため植生調査、林縁の直翅類昆虫調査を実施し、また平成26年度植生管理計画を策定した。これに基づき、外来種・園芸種の樹木の7種32本の伐採を行った。
2. 宿泊体験学習の実施校向けのプログラム「レンジャーと森を歩こう」を開始し、応募のあった市立学校から厳正なる抽選で選ばれた5校に対し、学校を訪問しての事前学習と、園内における野外活動のプログラムを実施した。5校で454人の児童・教員がこれに参加し、17種類のアクティビティを開発、延べ19回実施した。

### 3. 主要事業の成果

#### 環境教育

##### 来園者対応

- ・自然観察センターを307日間開館し、45,789人の来館者を得た。(前年比97%)
- ・市内市立小学校の宿泊体験学習、幼稚園、成人の市民団体等、116団体9,124名に対し、レクチャー等の対応を行なった。
- ・宿泊体験学習は市立小学校全344校中、延べ135校9,124人が来園し、延べ70校7,082人に対しレクチャーを行なった。

##### 展示による自然解説

- ・自然観察センターにおいて次の内容の展示を行なった。
- ①横浜自然観察の森の概要や森での過ごし方(マナーや注意)を知る
- ②園内に生息・生育する生きもの、その季節に見られる生きものがわかる
- ③諸感覚をつかった自然の楽しみ方、生き物の出会い方に気づく
- ④森づくりの活動が行なわれている事に気づく
- ⑤フィールドでの気づきの喜びをわかちあう
- ・「生きものにぎわいのある森コーナー」で下記のテーマ展示の更新を行なった。
- 上半期「保安全管理計画への取り組み：～水辺の管理計画の概要と水辺の生きもの～」期間：6月～9月
- 下半期「保安全管理計画への取り組み：～草地の管理計画の概要と草地の生きもの～」

##### 広報

- ・ウェブサイトを24回程度更新し、65,964回のページビューを得た。ブログは38回更新し、ページビュー数16,551回を得た。
- ・マスコミ等取材74件に対応した。(FMヨコハマ“Gift from the Earth”への資料提供12件を含む)
- ・新たなリピーターの開拓のために、行事参加者に向けて行事案内のためのメルマガの発行を開始し、13回送付した。年度末の登録人数は58人で昨年度末より34人増やした。

##### 行事

- ・30回の行事により参加者合計1,279名に対し教育プログラムを実施した。
- 幼児向け行事「森のちびっこ探検隊」2回【関心レベル親しみ段階向け】参加者合計51名。
- 親子でバードウォッチング3回【関心レベル理解段階向け】参加者合計63名。
- ホテルの紙芝居「ゲンちゃんヘイちゃんの紙芝居劇場」3回【関心レベル理解段階向け】参加者合計48名。
- 生きもの講演会1回【行動レベル技能習得段階向け】外来生物(アライグマ)対策をすすめるにあたって、ボランティアの支援体制を構築するため、専門家および行政担当者による講義と実習を行った。参加者23名。
- 森を守るボランティア体験6回【協働レベル実践段階向け】ボランティア活動の体験講座を友の会との共催で実施。参加者合計58名。
- ★ウェルカムセンター事業
- 家族向け環境保全体験イベント「いきものを守るシリーズ」水辺編、草地編、林編 合計6回
- 体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」5校に対し実施した。参加者合計454名
- 企業向けイベント：CSR活動支援を4社に対して行った(三菱電機株式会社神奈川支社、三菱UFJ銀行上大岡支店、東芝メモリシステムズ株式会社、石井造園株式会社)。参加者合計76名

##### ボランティアコーディネート

- ・横浜自然観察の森友の会会員等のボランティア122人について延べ2,919人の活動を受け入れ、次のような実績を得た。
- ①友の会主催一般向け行事：103回実施(参加者1,200人)
- ②友の会プロジェクト活動：11グループ延べ545回(環境省モニタリングサイト1000里地調査を含む)
- ③友の会行事・会議等：208回
- ・以上等の活動について連絡調整等を行った。
- ・友の会と共催でボランティア体験行事を6回実施し、58人の参加を得、うち7人が入会した。

##### その他

- ・視察5件(合計24人)に対応した。
- ・上記以外の学校教育への支援として、横浜市環境創造局政策課の環境教育出前講座の講師依頼に応じ、3件(104人)に対応した。

## 環境調査

次の11項目について674回の調査を実施した。調査結果については調査報告20号として公表の予定（編集中）。

### モニタリング

- ・環境指標調査：環境変化を把握するための次の調査を実施した。
- 鳥類相変化調査（鳥類ラインセンサス 秋冬なわばり調査 日別鳥類調査）
- 台湾リス数変化調査 水辺の調査（物理的環境、水生生物） 草地の調査（バッタ類）
- ホタル発生数変化調査 環境写真記録調査）

- ・環境教育効果測定調査：入館者数を把握するための調査を実施した。

### 生物保全基礎調査

- ・希少植物調査：種の保全のための調査、シラン原生地の調査を実施した。

### 観察資源調査

- ・自然情報収集調査：自然情報を収集した。結果は自然観察センター内で市民に供覧した。

### 保全管理計画のフォローアップ 【保全管理計画に関わるフォローアップ事業】

- ・保全管理計画の実施のため、過去に行なった環境調査の結果をとりまとめ、検討の材料とした。
- ・桜林のモニタリングのため、次の調査を実施した。

植生調査：低木層（5月） 草本層（10月）

林縁の指標となる昆虫クツワムシの分布調査（園内全域8～9月、7回）

### その他 【(公財)日本野鳥の会自主事業】

- ・平成25年度に実施したレンジャーによる調査結果とボランティア、学生等研究者の皆さんの調査成果をまとめた「横浜自然観察の森調査報告19」を冊子（144ページ）として120部発行し、またホームページに掲載して公開した。
- ・横浜自然観察の森友の会と協力し、環境省のモニタリングサイト1000里地調査について全部で7項目の調査を継続して行った。（中・大型哺乳類、鳥類、カエル類、ホタル類、チョウ類、植物相、水環境）
- ・横浜市環境創造局動物園課のアライグマ対策事業に協力し、捕獲効果のモニタリングのため、トラップの近辺に赤外線センサーによる自動撮影カメラを2ヶ所に設置、捕獲期間中に延べ24日の撮影を行った。

## 環境管理

合計 271 回の管理作業を行った。また保全管理計画のフォローアップとして桜林他の計画策定とモニタリングを行った。

### 利用者のための管理

- ・施設点検：安全点検を定期的に延べ 17 回実施した。
- ・施設保守管理：園路、水路、サインやベンチ等の施設の点検と保守管理を 207 回実施した。
- ・園路巡回：台風、大雪等の災害時等の危険個所の巡回確認を 5 回実施し、業者による復旧作業の調整を行なった。
- ・業者による危険木の処理についての調整を行なった。

### 生物多様性保全のための管理

- ・草地、林、水辺地の生物の保全管理を 42 回実施した。
- ・業者による外来種・園芸種の植栽木の除去についての調整を行なった。

### 保全管理計画のフォローアップ 【保全管理計画に関わるフォローアップ事業】

- ・桜林の検討会：「横浜自然観察の森保全管理計画書」に基づき、雑木林管理ゾーン内の管理区「桜林」及び管理区 4、7、9 の保全管理について、ボランティア参加により検討会を 4 回、これに関係する勉強会を 2 回開催し、当年度版の「桜林の植生管理計画」を策定した。これに基づき、横浜市委託の業者が外来種・園芸種の樹木 22 本の伐採を行った。
- ・保全管理懇談会：園内の環境管理に関する市、友の会、レンジャーの間の情報共有、合意形成の場を 2 回、設けた。

### その他 【(公財)日本野鳥の会自主事業】

- ・横浜市環境創造局動物園課のアライグマ対策事業に協力し、自主事業として、友の会の皆さん等から巡回ボランティアを募り、12 名の方に登録いただき、延べ 117 回の巡回をしていただいた。これにより、6 基の罠 84 日間の捕獲を行ない、アライグマ 17 頭、タイワンリス 15 頭が捕獲された。  
捕獲効果のモニタリングのため、トラップの近辺に赤外線センサーによる自動撮影カメラを 2ヶ所に設置、捕獲期間中に延べ 24 日の撮影を行った。
- ・横浜市環境創造局動物園課のアライグマ対策事業に協力し、トラップの設置位置の検討や友の会活動との調整を行った。

## みどりアップ事業

以上の事業のうち、「横浜みどりアップ計画」に該当する事業は以下の通り。

### 保全管理計画のフォローアップ事業 (みどり税充当)

- 園内の環境管理に関する懇談会「保全管理懇談会」 2 回
- 保全管理の検討会 4 回
- 勉強会 2 回 (クツワムシ、シダ類)
- 過去の生物データのとりまとめ
- 雑木林管理ゾーンの現地調査 (直翅類、植生)

### ウェルカムセンター事業 (みどり税非充当)

- 家族向け環境保全体験イベント「いきものを知る守るシリーズ」
- 体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」
- 企業向けイベント：CSR 活動支援

# (4) 平成 27 年度 事業計画

## 平成27年度 重点項目

1. 保全管理計画のフォローアップを通じ、雑木林管理ゾーンを中心に、順応的管理の実施を継続する。
2. ウェルカムセンター事業の一環として、宿泊体験学習における自然体験学習を深めるために、モデルプログラム開発を継続する。昨年度リニューアルした野外展示との連動も図る。

## 環境教育

### 来園者対応

- ・ 小学校の宿泊体験学習（最大 154 校）、幼稚園等の受け入れを行う。
- ・ 宿泊体験学習におけるプログラム開発のためのモデル授業対応「レンジャーと森を歩こう」（上郷・森の家で宿泊体験学習を行う市立小中学校で希望のある学校から、抽選で 5 校を選抜）【ウェルカムセンター事業】

### 展示による自然解説

- ・ 自然情報カードの収集に基づき、園内の最新の自然情報を継続的に更新する。
- ・ 「生きもののにぎわいのある森コーナー」で下記のテーマ展示を更新する。
  - 上半期 トンボいろいろ～横浜自然観察の森のトンボたち～
  - 下半期 もうきんるって何？～横浜自然観察の森で見られる猛禽類～
- ・ ウェルカムセンターとして、円海山周辺緑地や近隣施設の情報を発信する。
- ・ 昨年度リニューアルした野外展示を、小学校の宿泊体験学習等に活用してゆく。

### 広報

- ・ ホームページ、ブログを更新し、行事参加者の募集や園内の自然情報、事業の PR 等の広報を行う。
- ・ マスコミの協力を得てマスメディアを通じた広報・普及活動を行う。

### 行事

- ・ さまざまな層の市民のための主催行事を下記のように 30 回実施する。
  - 幼児向け行事 2 回【関心レベル 親しみ段階向け】
  - 親子でバードウォッチング 3 回【関心レベル 理解段階向け】
  - ホタルの紙芝居劇場 3 回【関心レベル 理解段階向け】
  - 生きもの講演会 1 回【行動レベル 技能習得段階向け】  
(カエルの保護について扱い、アライグマ対策事業と関連させる)
  - 森を守るボランティア体験 6 回【協働レベル 実践段階向け】
- ★ウェルカムセンター事業
  - 家族向け環境保全体験イベント「いきものを知る守るシリーズ」水辺編、草地編、林編 合計 6 回
  - 体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」 5 校
  - 企業向けイベント：CSR 活動支援 4 社

### ボランティアコーディネーター

- ・ 各プロジェクトごとに設定したコーディネーター目標にむけてサポートしていく。
- ・ 活動拠点の活用方法をプロジェクトごとに検討していく。
- ・ 横浜自然観察の森の保全管理計画のフォローアップ事業を通じ、ボランティアの参画、参加による実行を図る。

### その他

- ・ 学校教育への支援を行う。（環境教育出前講座対応、教員研修会の講師、等）

## 環境調査

### モニタリング

#### ・環境指標調査

環境変化を把握するための次の調査を実施する。

鳥類相変化調査（鳥類ラインセンサス 秋冬なわばり調査 日別鳥類調査）

タイワンリス数変化調査

水辺の調査（物理的環境、水生生物）

草地の調査（バッタ類）

ホタル発生数変化調査

環境写真記録調査

#### ・環境教育効果測定調査

入館者数を把握するための調査を実施。

### 生物保全基礎調査

#### ・希少植物調査（種の保全、シラン）

### 観察資源調査

#### ・自然情報収集調査

自然情報を収集し、市民が閲覧できるようセンターに設置。

### 保安全管理計画のフォローアップ

#### 【保安全管理計画に関わるフォローアップ事業】

・保安全管理計画の実施のため、モデル地区として対象にする「桜林」において過去に行なった環境調査の結果をとりまとめ、検討の材料とする。

・桜林を中心とした雑木林管理ゾーンの生物のモニタリングを実施する。（植生、直翅類）

### その他

【(公財)日本野鳥の会自主事業】

・平成 26 年度に実施したレンジャーによる調査結果とボランティア、学生等研究者の皆さんの調査成果をまとめた「横浜自然観察の森調査報告 20」を冊子（144 ページ）として発行し、またホームページに掲載して公開する。

・横浜自然観察の森友の会と協力し、環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査について全部で 7 項目の調査を継続して行なう。（中・大型哺乳類、鳥類、カエル類、ホタル類、チョウ類、植物相、水環境）

・特定外来生物アライグマの生態系への被害防除について、横浜市の関係部署、友の会と連携して防除事業に関わる捕獲効果のモニタリングを継続する。



## 環境管理

「横浜自然観察の森保全管理計画書」に基づき、「生きもののにぎわいのある森」をめざして、次の管理を行う。

### 利用者のための管理

- ・施設点検：利用者の安全を図るために、園内施設について点検。危険箇所に対応する。
- ・園路巡回：台風等の災害発生時や積雪等の被害が予測される場合等、適宜園内を巡回し被害状況や危険箇所をチェックし、被害箇所に対応する。
- ・施設保守管理：利用者が快適に利用できるよう、園路、側溝、サインやベンチ等施設の保守管理を行う。

### 生物多様性保全のための管理

- ・草地、樹林地、湿地等において、生物の生息環境を維持・向上させるための管理を行う。
- ・過去に植栽された園芸種の樹木やモウソウチクなど、外来植物の除去を行う。

### 保全管理計画のフォローアップ 【保全管理計画に関わるフォローアップ事業】

- ・保全管理計画に基づく順応的な環境管理の実施のために必要な次の事業を、市民参加で行う。
  - 園内の環境管理に関する懇談会「保全管理懇談会」 2回
  - 「保全管理フォローアップの会」 ■雑木林管理ゾーンの管理とモニタリングに関する検討会 4回
  - 勉強会 2回

### その他 【(公財)日本野鳥の会自主事業】

- ・特定外来生物アライグマの生態系への被害防除について、横浜市の関係部署、友の会と連携して防除事業を継続する。

## みどりアップ事業

以上の事業のうち、「横浜みどりアップ計画」に該当する事業は以下の通り。

### 保全管理計画のフォローアップ事業 (みどり税充当)

- 園内の環境管理に関する懇談会「保全管理懇談会」 2回
- 雑木林管理ゾーンの管理とモニタリングに関する検討会 4回
- 勉強会 2回
- 過去の生物データのとりまとめ
- 雑木林管理ゾーンの生物モニタリング(直翅類、植生)

### ウェルカムセンター事業 (みどり税非充当)

- 家族向け環境保全体験イベント「いきものを知る守るシリーズ」
- 体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」
- 企業向けイベント：CSR 活動支援

# 資料編

1. 横浜自然観察の森 開園年からの利用者数の変化
2. これまでの代表的な成果発表・発行物
3. 平成 27 年度行事予定表
4. 横浜自然観察の森友の会について

# 1. 横浜自然観察の森 開園年からの利用者数の変化

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
入園者数総計(推定)	78,870	76,413	84,315	71,391	78,045	77,814	133,170	153,387	135,582	142,713
開園からの累計(推定)	78,870	155,283	239,598	310,989	389,034	466,848	600,018	753,405	888,987	1,031,700
センター利用者総計	26,290	25,471	28,105	23,797	26,015	25,938	44,390	51,129	45,194	47,571
開園からの累計	26,290	51,761	79,866	103,663	129,678	155,616	200,006	251,135	296,329	343,900
入館者合計	26,290	25,471	28,105	23,797	26,015	25,938	43,375	49,246	43,205	45,145
内訳										
個人利用者	13,907	12,530	13,832	12,100	12,232	12,232	26,883	26,759	21,250	20,104
団体利用者	12,383	12,941	14,273	11,697	13,783	13,706	16,492	22,487	18,737	20,991
行事参加者									3,218	4,050
友の会行事参加者										
累計	26,290	51,761	79,866	103,663	129,678	155,616	198,991	248,237	291,442	336,587
ボランティア合計							1,015	1,883	1,989	2,426
内訳										
友の会ボランティア										
施設ボランティア										
累計							1,015	2,898	4,887	7,313

年度	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
入園者数総計(推定)	132,435	130,590	135,588	134,757	117,126	124,200	138,768	127,431	133,998	120,411
開園からの累計(推定)	1,164,135	1,294,725	1,430,313	1,565,070	1,682,196	1,806,396	1,945,164	2,072,595	2,206,593	2,327,004
センター利用者総計	44,145	43,530	45,196	44,919	39,042	41,400	46,256	42,477	44,666	40,137
開園からの累計	388,045	431,575	476,771	521,690	560,732	602,132	648,388	690,865	735,531	775,668
入館者合計	41,481	40,291	42,485	42,340	36,708	38,674	43,425	39,771	42,170	37,572
内訳										
個人利用者	18,834	18,306	16,396	12,976	13,876	16,386	17,116	15,618	14,687	13,791
団体利用者	18,700	18,038	22,094	25,015	18,819	19,323	22,697	20,518	23,512	20,155
行事参加者	3,947	3,947	3,995	4,349	4,013	2,965	3,612	3,635	3,404	2,903
友の会行事参加者									567	723
累計	378,068	418,359	460,844	503,184	539,892	578,566	621,991	661,762	703,932	741,504
ボランティア合計	2,664	3,239	2,711	2,579	2,334	2,726	2,831	2,706	2,496	2,565
内訳										
友の会ボランティア						2,390	2,597	2,489	2,172	2,393
施設ボランティア						336	234	217	324	172
累計	9,977	13,216	15,927	18,506	20,840	23,566	26,397	29,103	31,599	34,164

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
入園者数総計(推定)	113,169	126,660	137,346	132,462	126,711	111,777	135,393	141,294	136,467
開園からの累計(推定)	2,440,173	2,566,833	2,704,179	2,836,791	2,963,502	3,075,279	3,210,672	3,351,966	3,488,433
センター利用者総計	37,723	42,220	45,782	44,154	42,237	37,259	45,131	47,098	45,489
開園からの累計	813,391	855,611	901,393	945,547	987,784	1,025,043	1,070,174	1,117,272	1,155,451
入館者合計	35,130	39,824	43,153	41,883	40,076	35,783	42,770	44,268	42,570
内訳									
個人利用者	11,300	16,002	19,227	20,307	16,984	9,482	16,653	16,624	17,499
団体利用者	19,424	20,884	21,334	19,216	21,257	24,772	24,174	25,570	22,592
行事参加者	3,796	2,210	1,749	1,684	1,199	957	1,126	1,066	1,279
友の会行事参加者	610	728	843	676	636	572	817	1,008	1,200
累計	776,634	816,458	859,611	901,494	941,570	977,353	1,020,123	1,064,391	1,106,961
ボランティア合計	2,593	2,396	2,629	2,271	2,161	1,476	2,361	2,830	2,919
内訳									
友の会ボランティア	2,317	2,286	2,562	2,259	2,090	1,445	1,978	2,594	2,515
施設ボランティア	276	110	67	12	71	31	383	236	404
累計	36,757	39,153	41,782	44,053	46,214	47,690	50,051	52,881	55,800

自然観察センターの利用者の開園以来の累計は平成 26 (2014) 年度末までに 115 万人を突破し、入園者の推計値も 340 万人を越えた。

## 2. これまでの代表的な成果発表・発行物

年度	環境調査	環境管理	環境教育
1997			横浜市緑政局. 開園 10 周年記念ガイドブック「森の小さなおとしもの」作成協力
1999	論文発表「横浜自然観察の森における 13 年間にわたるタイワンリスの個体数変化」BINOS(日本野鳥の会神奈川支部研究年報)6: 15-20. 著者名: 藤田薫・古南幸弘・大屋親雄.		
2001	論文発表「横浜自然観察の森における繁殖期の鳥類相の 11 年間の変化」BINOS8: 37-40. 著者名: 東陽一・古南幸弘・大屋親雄.		
2002	保全管理計画策定のため、レンジャーとボランティアによる「『生き物のにぎわいのある森づくり』を考える会」を発足		
2003			環境省自然保護局自然ふれあい推進室 自然観察の森ティーズガイド 「はじめの一步」作成協力
2004	保全管理計画策定		環境省自然保護局自然ふれあい推進室 「身近な自然を活用した環境教育ティ ーチャーズガイド」作成協力
2006	21 年間のラインセンサス調査やホタル調査の結果をまとめた報告書を作成		横浜市教育委員会. 環境教育指導資料第 2 集「自然となかよしになる活動」 野外観察のための指導資料 作成協力
2006	保全管理計画(2004 年度策定)に基づいた実験的な順応的管理を開始		
2007	ポスター発表「横浜自然観察の森における 21 年間の鳥類相の変化」日本鳥学会 2007 年度大会. 発表者名: 柴田英美・藤田剛・古南幸弘・大屋親雄・東陽一・中里直幹・玉田知穂・篠原由紀子・藤田薫.		
2008	論文発表「横浜自然観察の森における水生ホタル類成虫 2 種の 21 年間の発生数変化」. 神奈川自然誌資料 29: 143-149. 著者名: 松田久司・古南幸弘・東陽一・藤田剛・藤田薫		財団法人日本野鳥の会. DVD「いきものにぎわいのある森 横浜自然観察の森へ行こう!」制作
2011			公益財団法人日本野鳥の会. 自然観察センターリニューアルオープン記念 「カエルすごろく」制作、配布
2012	横浜市環境創造局みどりアップ推進課「横浜自然観察の森保全管理計画書」策定に参加、協力		
2014	論文発表「横浜自然観察の森におけるアライグマによるヤマアカガエルの捕食行動の観察・撮影記録」 爬虫両棲類学会報 2014(2): 108-111. 著者名: 掛下尚一郎・齋藤仁志・瀧本宏昭		

### 3. 平成 27 年度 主催行事予定表

#### ■一般会計事業

#### 1. 「関心」段階向け行事实施

#### 1) 「親しみ」段階向けプログラム

行事名	幼児向けプログラム 「ススメ！秋の森たんけんたい」		
実施日	2015 年 10 月 12 日(祝) 10 月 17 日(日) * 雨天決行(雨天時は室内プログラム)		
時間	10 時 00 分 ~ 12 時 00 分		
対象	3~6 歳の未就学児とその保護者		
募集締切	2015 年 9 月 30 日	定員	40 名
目的	今後の自然体験活動のきっかけとなるよう、秋の森の自然を見る目を伝える。		
概要	起伏が少ない道をコースとして設定し、親子で秋の森の自然をネイチャーゲームや観察を通して体感してもらう。		

## 2) 「理解」段階向けプログラム

行事名	解説型プログラム 「親子でバードウォッチング」		
実施日	2015年5月24日(日) 2015年11月29日(日) 2016年1月30日(土) *雨天決行(雨天時は室内プログラム)		
時間	10時00分～12時30分		
募集締切	2015年5月15日(金) 2015年11月15日(日) 2016年1月16日(土)		
対象	6歳から中学生までの親子	定員	30名
目的	バードウォッチングを通して来園者に森に親しんでもらい、にぎわいのある森づくりに 対する理解を深めてもらう。		
概要	日本野鳥の会神奈川支部のリーダーを講師に迎え、グループに分かれて森の中でバードウォッチングをおこなう。初めての野鳥観察体験という点に内容の重点を置く。		

行事名	解説型プログラム ゲンちゃんヘイちゃんの紙芝居劇場		
実施日	2015年6月13日(土) 6月20日(土) 6月27日(土) *雨天時は各回、翌日に順延		
時間	19時00分～20時00分		
対象	全年齢	定員	なし
募集締切	事前募集なし		
目的	来園者へホタルの生態と生息環境を保全する大切さを伝えると共に、観察時のマナーを普及する。		
概要	ホタルの紙芝居をおこない、ホタルの生活史と観察時のマナーの普及をする。		

### 3) 「行動・技能習得」段階向けプログラム

行事名	生きもの講演会		
実施日	2016年2月、3月ごろ1日を予定		
時間	10時00分～15時00分(予定)		
募集締切	調整中		
対象	中学生以上	定員	40名
目的	園内で見ることができる生き物の専門的な知識を学ぶことができる場を提供する。		
概要	<p>円海山域のカエル類の保全の背景、現状、課題、湿地環境の保全や卵塊調査などの具体的な取り組みに関する講義とフィールド実習を行う予定。</p>		

### 4) 「協働・実践」段階向けプログラム

行事名	森を守るボランティア体験		
実施日	2015年4月19日(日) 鳥のくらし発見隊グループの活動体験 6月21日(日) 野草プロジェクトの活動体験 8月16日(日) 自然とあそぼうの活動体験 10月18日(日) 雑木林ファンクラブの活動体験 12月21日(日) 畑プロジェクトと森の絵本づくりの会の活動体験 2016年2月21日(日) カワセミファンクラブの活動体験 *雨天決行(雨天時は室内プログラム)		
時間	9時30分～14時00分		
募集締切	各実施日の前日		
対象	全年齢 小学生以下は保護者同伴		
目的	横浜自然観察の森友の会の新規会員(観察の森の役割・友の会の役割・PJの概要・活動内容ルールやマナーを理解した)を増やす。	定員	なし
概要	<p>横浜自然観察の森友の会との共同開催。施設と友の会の概要を説明した後、屋外を見学し、可能な場合は実際の活動を体験していただく。各回で友の会の担当プロジェクトを決め、体験内容はそれぞれのプロジェクトに行っていく。</p>		



■ウエルカムセンター事業

ア 市民向けイベント

1) 家族向け環境保全体験イベント「生きものを知る守るシリーズ」

小学生とその保護者を対象に、調査体験と保全活動体験を組み合わせた講座を合計6回実施する。

行事名	「生きものを知る守るシリーズ」水辺のいきもの調査隊		
実施日	2014年7月26日(日) 雨天時順延:8月1日(土) 【両日同内容】 8月8日(土) 雨天時順延:8月15日(土)		
時間	10時00分～15時00分		
対象	小学生とその保護者	定員	40名×2回
募集締切	2014年7月15日調査		
目的	源流域の水生生物について知り、調査とその結果を伝える体験を通して、生きものを守るための方法を知る。		
概要	①水生生物の採取・観察の方法を知る ②源流域にどのような水生生物が暮らしているのかを知る ③調べたことをまとめる方法を知る ④調べ、まとめ、伝えることが生き物を守ることに繋がることを知る		

行事名	「生きものを知る守るシリーズ」草地のバッタ調査隊		
実施日	調査編 2014年9月12日(土) 雨天時順延:9月19日(日) 保護編 10月3日(土) 雨天決行		
時間	10時00分～15時00分		
対象	小学生とその保護者	定員	40名
募集締切	2014年8月29日		
目的	調査編:生き物ごとに好む環境が異なることを知ると共に、調査とその結果を他の人に伝えることが生き物を守ることに繋がることを学ぶ。 保護編:外来種の草抜きを通して、自然を守る活動はだれにでもできることを体感すると共に、身近な自然を守る活動につなげる。		
概要	調査編:①バッタ類の特徴を知る②異なる環境の草地を調べ、生息するバッタ類の種類が違うことを体感する ③調査の結果をまとめる方法を知る ④調査結果を他に伝えること方法を体験する 保護編:①外来種という存在を学ぶ②セイタカアワダチソウの特徴とその存在の影響を学ぶ。③外来種除去方法のひとつの草抜きを体感する。		

行事名	「生きものを知る守るシリーズ」林の野鳥調査隊		
実施日	2015年12月5日(土) 雨天時順延:12月12日(土) 2016年1月16日(土) 雨天決行		
時間	10時00分～15時00分		
対象	小学生とその保護者	定員	40名
募集締切	2015年11月29日		
目的	林の野鳥の観察を通して野鳥と親しむと共に、野鳥と周辺環境が関係し合い、野鳥保護には多様な環境を守る必要があることを伝える。		
概要	<p>①野鳥という存在を知る ②野鳥の巣の形態を知る ③野外で巣を探す体験をする ④巣に使われている素材を知る ⑤野鳥に関する調査を体験する ⑥調べたことをまとめる方法を知る</p>		

## 2) 体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」

隣接する上郷・森の家の宿泊体験校に対し、森へのより深い理解へつなげるプログラムを学校と連携して実施する。5校に対し実施し、応募校数が5校に満たない場合は、同等の事業により振り替える。

■第1期 (5月11日(月)～6月14日(日)) 1校  
本郷台小学校 実施日 6月8日(月)

■第2期 (6月16日(火)～7月16日(木)) 1校  
齋藤分小学校 実施日 6月23日(火)

■第3期 (9月1日(火)～10月15日(木)) 1校  
星川小学校 実施日 9月7日(月)

■第4期 (10月18日(日)～2016年1月14日(木)) 2校  
末吉小学校 実施日 10月25日(日)  
(締切日までに申し込みのあったのが1校のみであったので、あと1校は再募集)

## イ 企業向け CSR 活動の支援

CSR活動を希望する企業を支援し、企画実施のサポートを行う。以下の4社に対して実施する。

■三菱電機株式会社神奈川支社	実施日 6月12日(金)
■日清オイリオグループ株式会社横浜磯子事業所	実施日 6月27日(土)
■三菱UFJ信託銀行上大岡支店	実施日 10月か11月で調整
■東芝メモリシステムズ株式会社	実施日 調整中

## 4. 横浜自然観察の森友の会について

### 概要

横浜自然観察の森友の会は、自然保護思想の普及啓発と青少年の育成を主な目的として作られたボランティア組織で、昭和63（1988）年10月に活動を開始しました。

友の会では自主活動と横浜自然観察の森の主催行事などの参加から、環境保全活動の技術や知識を体験的に会得することができ、横浜市における環境保全ボランティアを育成する、いわば「自然学校」としての機能を担っています。

会員は、自然に関心を持ち、自然を守り育てたいと考えている人たちで、現在約200人です。地域の環境保全グループのネットワークへの参加も積極的に行い、横浜市民の環境保全活動の核になっています。レンジャーは友の会の運営に関する助言と指導、事業や横浜市との調整・連絡を行います。

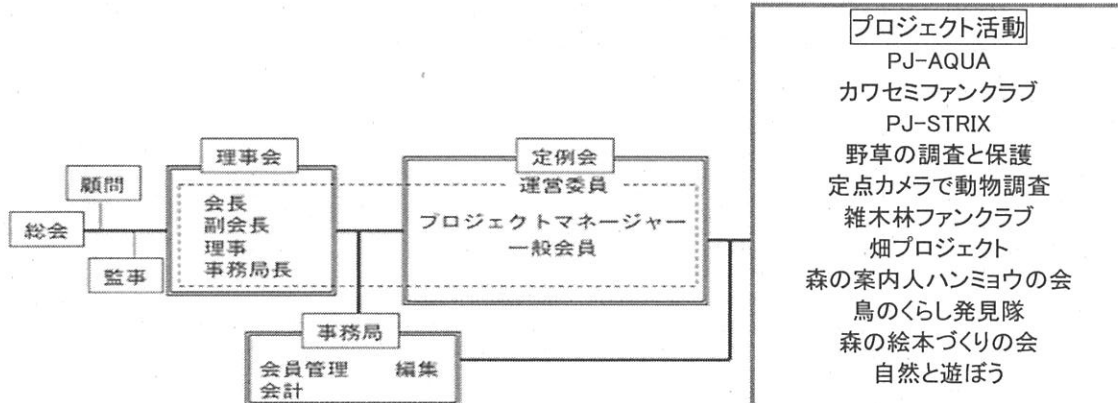
### 友の会の歴史

昭和60年		横浜自然観察の森運営準備会（第4回～6回）で友の会構想について協議。
昭和61年	3月	横浜自然観察の森開園
昭和62年	3月	横浜自然観察の森利用推進会議で友の会構想について協議を重ねる。
昭和63年	2月	横浜自然観察の森利用推進会議作業部会で「友の会設立準備会」発足について協議。
	3月	横浜自然観察の森利用推進会議で「友の会設立準備会」発足が承認される。
	5～9月	横浜自然観察の森友の会設立準備会を開催。
	10月	横浜自然観察の森友の会設立総会。
平成5年	11月	5周年記念行事開催。 横浜市より「環境保全活動賞」受賞。
平成10年		設立10周年。
平成12年		横浜市より雑木林ファンクラブ「環境保全活動賞」受賞。
平成13年		環境大臣より雑木林ファンクラブが表彰を受ける。
平成16年		横浜市より「横浜・人・まちデザイン賞—まちづくり活動部門」表彰を受ける。
平成20年		設立20周年。20周年記念誌発行。

### 入会の方法

- 主催行事「森を守るボランティア体験」に参加してください。友の会の活動をご紹介するので、ここで手続きできます。会費は郵便振込。いつでも入会できます。入会資格は小学生以上。
- 会費は年度制、高校生以上2,000円、中学生以下600円、家族は何人でも3,500円。
- 入会すると、隔月の会報「ゴロスケ報々」が送付され、会員対象の行事に参加することができます。また、ボランティア保険に加入できます。

### 組織



# 友の会活動紹介 (2015年度横浜自然観察の森友の会総会資料から)

## 活動プロフィール集 2015

横浜自然観察の森には、さまざまな人が訪れます。そのなかで、もう少しじっくりとこの場所に関わってみようというのが、友の会会員です。友の会は、「横浜自然観察の森を中心として、身近な自然とふれあい、自然を愛し、自然に学び、自然を守り、育て、自然を愛する人々を育てよう」ということを目的として、自然の中で、人と生き物のステキな「出会い」「発見」「関わり」をサポートします。

### 主な活動

① 交流・親睦・研修・講習	:「友の会行事」としてゴロスケ報々でお知らせします。
② 自然観察センター事業への協力	:「森の行事予定」や掲示、ゴロスケ報々をご覧ください。
③ プロジェクト活動	:テーマ毎にメンバーを募って継続的に活動します。
④ 情報収集・蓄積・還元	:会報の交換閲覧や電子メールなどの活用を行います。
⑤ ネットワーク	:円海山緑地・いるか丘陵・関連施設などと連携しています。

### プロジェクト

プロジェクト名称	メンバー 代表者	参加資格	活動日
<担当レンジャー>	プロジェクトPR		
カワセミファンクラブ (略称 KFC)	8名 大浦晴壽	野鳥・チョウ・トンボに興味のある方ならどなたでも (ただし採取を目的としない方)	主として土・日曜日 (天候によって変わります)
<掛下R>	・園内の野鳥、チョウ、トンボの観察を通し生息状況を調査します。		
PJ-STRIX (プロジェクトストリクス)	7名 秋元文雄	原則として、探鳥経験おおむね3年。秘密が守れる人。熱心に活動できる人。	通年 特に12~5月
<掛下R>	・森のフクロウを見守る活動を行っています。		
雑木林ファンクラブ (略称 ZFC)	37名 橋詰 斉	中学生以上	毎週水・土曜日(第3土曜日午後運営会) 活動時間 10:00~15:00
<古南・瀧本R>	・園内の雑木林や人工林など保全管理を実施しています。春の植樹・補植に始まり、夏の下草刈り、そして秋から冬にかけて間伐・枝打ちなどです。間伐材で本格的な炭焼きも行い、木酢液・竹酢液も作っています。外部イベントにも参加し、間伐材で作った木工品や竹細工なども出品します。炭窯や炭小屋なども自分達で作りました。気持ちよく働くことの好きな方大歓迎です。いろんな道具の使い方も覚えられます。		
畑プロジェクト	4名 落合道夫	どなたでも	第1・3土曜日 活動時間 10:00~12:00
<古南・黒川R>	・生きものにぎわう、雑木林に囲まれた畑を作ることを目指して活動しています。活動を通して自然に親しみましょう。また、農作物や自然の恵みを生かしましょう。		
森の案内人ハンミョウの会	5名 池田 浩	どなたでも	第1日曜日 下見9:15~ 本番 11:00~ 13:00~
<黒川・尾崎R>	・ガイドウォークによる自然観察を通じて、生きものにぎわいを守る環境保全を啓発しています。 ・自然のメッセージを伝える「インタープリテーション」を学ぶ「自然案内人講座」を運営しています。		
鳥のくらし発見隊	18名 中里幹久	どなたでも	第2日曜日 9:00~13:00
<掛下R>	・毎月第2日曜日の「みんなでバードウォッチング」の案内役を務めています。またセンターへの野鳥の情報提供も行っています。メンバーはみんな鳥好き、楽しく活動しています。鳥を見つけたときの感動を、多くの人に伝えてみませんか。		

プロジェクト名称	メンバー	参加資格	活動日
	代表者		
〈担当レンジャー〉	プロジェクトPR		
森の絵本づくりの会	7名 志釜じゅんこう	どなたでも	第3水曜日 10:00~12:00
〈尾崎・古南R〉	・自然をテーマにした絵本を作り、センター内に展示します。・絵本の読み聞かせをします。 ・絵本を通して生き物や自然に興味や親しみを持ってもらいたいと考えています。		
自然と遊ぼう	4名 村松古明	どなたでも	第4土曜日、但し12月は第2土曜日 13:00~ 14:00~
〈黒川・尾崎R〉	・来園者を対象に季節に応じた素材で五感をくまなく使いゲーム手法なども加え、楽しみながら自然観察を通じて自然大好き人間の仲間を広げることを念頭に活動しています。		
野草の調査と保護	5名 篠原由紀子	環境保全したい方	月2回 火・木(変更あり) 9:00~15:00
〈古南・瀧本R〉	・観察の森の植物調査、希少植物の保護、外来種の除去作業を行っています。 ・積み重ねたデータを提供して、観察の森の保全管理に役立ててもらっています。		
定点カメラで動物調査	5名 渡部克哉	どなたでも	5~11月の第2土曜日 9:30~12:00
〈掛下R〉	森の中にカメラを設置して、写った動物の種類や数を調べています。体力がなくても動物の見分けができなくとも1回だけの参加もOKです。(「調査編」は会員向け、「写真チェック編」は市民むけ。		
PJ-AQUA (プロジェクト-AQUA)	漆原弘光	現在一時休止中	水辺整備の行事など会報にてお知らせします
	・鳥や植物以外にもたくさんの生き物が、横浜自然観察の森には生きています。 ・水辺の生き物を見て回ります。		

メンバーは、すべて友の会会員で構成されています。

## 運 営

事務局	中里幹久(事務局長)	どなたでも	
<古南R>	・会員間や施設との連携調整、会議資料の準備や整理、友の会の行事企画実施、郵便物の整理や他団体との交流会出席など、さまざまなことをしています。最低限やらなければならない作業をやっとなしている状態です。都合のいい時に来てできる作業もあるので、ぜひお手伝いください。		
編 集	山尾 敬	どなたでも 編集委員を大募集中です！！	印刷 発送日の数日前(担当各PJ) 原則偶数月第3日曜13時～発送
<古南R>	・会報誌である「ゴロスケ報々」の編集を行っています。ゴロスケ報々のイラストや感想や要望も募集しています。 ・発送は皆さんの手に頼っています。お茶を飲みながらの雰囲気なので、どなたもお気軽にどうぞ。		
ホームページ	関根和彦	どなたでも 募集中です！！	随 時
<古南R>	・友の会、行事についての情報を、ホームページで発信しています。活動や自然の様子はブログで随時更新しています。		
定例会	中里幹久(事務局長)	どなたでも	原則奇数月 第3日曜 13:00～
<古南R>	・友の会行事やその運営について、他団体への具体的な支援活動などを決めます。プロジェクトの報告などもあり、友の会のようすが良くわかります。会員ならどなたでも参加できます。		
理事会	山口博一(会長)	理事(PJ・事務局・公募枠から選出)	原則奇数月 第3日曜 9:30～
<古南R>	・ルール作りや中長期事業計画など重要度の高い事項を審議します。		
・定期的に行っている行事には以下のものがあります。◆の行事は会員以外の方も申し込み無しで参加できます。			
行 事	◇ 森を守るボランティア体験(偶数月第3日曜日 9:30～14:00) 観察の森でのボランティア活動の入口です。観察センターと共催で、横浜自然観察の森と友の会の活動を紹介します。また、各PJ担当のボランティア体験も出来ます。		
	◆ 季節の森を歩こう(毎月第1日曜日 11:00～ 13:00～) 1時間ほど園内を散策して季節の森を楽しみます。当日9:15から下見を行っているので興味ある方はこちらもどうぞ。		
	◆ 鳥のくらし発見隊(毎月第2日曜日 9:00～13:00) バードウォッチングをしながら、観察した季節の生き物情報を施設に提供します。楽しみながらの簡単ボランティアです。		
	◆ 森の絵本を楽しもう(毎月第3水曜日 10:00～12:00) 絵本づくりに参加できます。読み聞かせをします。		
	◆ 自然と遊ぼう(毎月第4土曜日、但し12月は第2土曜日 13:00～ 14:00～) ゲームを通じて自然に親しんでいただける イベントです。 当日10:00から下見を行っているので興味ある方はこちらもどうぞ。		
	◆ 畑と作物を作ろう(毎月第3土曜日・除く8月 10:00～12:00 雨天中止) 里山の畑作りをめざして、周辺の雑木林の整備や、農業や化成肥料にたよらない作物の育成と畑での自然観察を行います。農作業できる服装でおこください。		
	◆ 定点カメラで動物調査(5月～11月の第2土曜日 9:30～12:00 雨天の場合変更有り) 森の中にカメラを設置して、写った動物の種類や数を調べています。体力がなくても動物の見分けができなくても1回だけの参加もOKです。([調査編]は友の会会員向け9:30～、[写真チェック編]は市民向け11:00～)		
不定例的に行う行事もあります。内容は定例会議で決定されます。ゴロスケ報々・HP等でご確認ください。他にも会員向け行事などもあります。			
単発行 事	◇ はじめてのちいさなしぜんかんさつ会(3月春休み-日程未定 午前午後2回 小雨決行) 3歳～小学2年生の家族向け対象の行事です。詳細はゴロスケ報々、またはHPで。		

ご紹介した活動のほか、「新しくこんなことをやってみたい」という提案もお待ちしています

(以下、2015年度横浜自然観察の森友の会総会資料)

## 2014年度 友の会事業報告

2014年度は活動拠点「ごろすけ館」も活用しながら、中長期目標の実現に向けて情報発信、保全管理計画の運用協力等を行いました。

当年度も、多くの会員、自然観察センター、横浜市環境創造局、いるか丘陵上の様々なグループおよびネットワークの協力と支援をいただき、無事事業を遂行することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

### ●重点項目

#### ○中期事業計画(2013-15)に基づく事業の実施

- ①情報発信を充実させます。(ボランティア活動拠点「ごろすけ館」の活用など)  
展示、行事、案内(ごろすけカフェ)、各プロジェクト活動などで「ごろすけ館」を積極的に活用し、ボランティア活動の様子を多くの来園者に伝えました。  
友の会ブログにより最新のフィールド情報を共有・発信しました。
- ②保全管理計画を活かします。  
サクラ林の保全管理検討や各プロジェクト活動などを通じて保全管理計画の実現に貢献しました。

### ● 行事報告

友の会主催行事、センター共催行事、協働・支援行事などで別表のとおり一般及び会員の参加を得ました。

### ● 会報発行

会報として、「ゴロスケ報々」を偶数月の第3日曜日に発行しました。

\*発行日: 4/20, 6/15, 8/17, 10/19, 12/21, 2/15

### ● 観察の森事業への協力

主催行事へのスタッフ協力、森を守るボランティア体験の共催、保全管理計画フォローアップ事業への参加・協力、市・学校・企業等からの依頼対応を始めとした観察の森事業への協力を行いました。

また、利用推進会議(7/6、2/22の2回)を中心に、横浜市環境創造局、公益財団法人日本野鳥の会、友の会の三者のパートナーシップの確立を推進しました。

### ● モニ1000里地調査の実施

植物相・チョウ・カエル・中大型哺乳類・人為的インパクトの調査を担当しました。

(植物相・チョウ・カエル・中大型哺乳類については、2013-2017の調査も継続)

### ● プロジェクトおよび調査グループ活動総括報告 2014

各プロジェクトは、年度計画に従い次の通り活動を展開しました。

#### ○カワセミファンクラブ

- ・園内の野鳥の観察・記録を行うとともにチョウ・トンボの生息調査を実施しこれらの生物と自然との関わりについて、来園者と積極的に会話した。
- ・環境省のモニタリング1000里地(チョウ)の調査を実施した。
- ・トンボ池の環境整備及びハイド前の環境整備を行った。
- ・定例の春の写真展に加え、「今月の野鳥」と題した常設写真展と秋に特別写真展として「飛翔野鳥写真展」を開催した。

○PJ-STRIX ・架設した巣箱の管理と生息状況、繁殖状況の調査、巣立ち雛の調査を実施した。新しい調査手法として、自動記録カメラによる調査を実施した。今年度も2羽の雛が森の中に巣立った。また、外部のグループへの支援を実施した。

○雑木林ファンクラブ ・クヌギ林上から桜林までの道沿いのシラカシの伐倒、クヌギ林のモミ

- ジの伐倒、畑PJの畑回りのコナラ、ミズキ、トウネズの伐倒。
- ・作業体験は5回企画、実施した。炭焼き一本窯1回、ドラム缶窯6回。
  - ・スプリングフェアへ参加した。
- 畑プロジェクト
- ・保全管理計画の趣旨に従い、畑周辺の雑木林の整備に努めている。
  - ・生き物のにぎわう畑を目指し、無農薬で落ち葉堆肥による作物の栽培に努めている。
  - ・森のボランティアまつりではサツマイモの収穫はできず、落花生とワケギを収穫した。
- 森の案内人  
ハンミョウの会
- ・毎月定例のガイドウォーク「季節の森を歩こう」を第1日曜日の午前と午後の2回、計24回実施。
  - ・インタープリター養成の講座として「自然案内人講座（2日間コース）」を実施。
  - ・友の会の会員向けの「森の生き物講座」として「マダニの生態と安全管理」を実施。
- 自然と遊ぼう
- ・遊びの手法を取り入れたガイドウォーク「自然と遊ぼう」を毎月実施した。
  - ・子どもを中心に親子の参加を受け、季節にあった自然の中での遊びを、自分たちも一緒に楽しんだ。
- 森の  
絵本づくりの会
- ・新作の題名は「月夜のおまつり」となり、本描きを進めている。
  - ・森の絵本を楽しもうに参加の親子に、簡単ミニ絵本をつくってもらい、読み聞かせをした。
  - ・森のボランティアまつりで、どんぐりの絵本を読み、どんぐりにふれてもらった。
  - ・8月、親子対象イベント「森の絵本を作ろう」を実施した。
- 鳥のくらし  
発見隊
- ・一般参加者を対象に野鳥の観察会を12回実施し、野鳥情報をセンターに提供した。
  - ・今年度はじめて初心者対象の「はじめてのバードウォッチング」を実施した。
- 野草の調査と保護
- ・環境省モニタリング1000里地調査の「植物相調査」を実施した。
  - ・稀少植物の保護作業をした。
  - ・保全管理検討会・懇談会に参加した。
  - ・業者の草刈りの前に必要な植物を保護した。
- 定点カメラで  
動物調査
- ・環境省モニタリング1000里地調査の「中・大型哺乳類調査」を、友の会会員向けの行事として実施した。
  - ・来園者参加型で写真チェックを行った。
  - ・ごろすけ館にて「森の生きものたち」と題した写真展を実施した。
- カエル調査
- ・ヤマアカガエルの卵塊調査を実施し、モニ1000カエル類調査にデータを提供した。
- ネットワーク関連活動報告
- ・4月11～13日横浜公園で開催されたスプリングフェアに参加した。
  - ・10月18日海の公園で開催された「金沢まつりいきいきフェスタ」に参加した。
- インターネットホームページ・電子メールの活用
- ・ホームページを更新し、情報の発信を行った。またブログにより最新情報を発信した。
  - ・事務局及び定例会の2つのメーリングリストにより、会の運営の円滑化を図るとともに、外部からの問い合わせに対応した。



横浜自然観察の森友の会 2014年度 行事活動報告

No.	行事名	対象	担当	趣旨・内容	開催日	月別参加人数												合計			
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1	森の交流会	会員	各PJ	会員の親睦、PJ間の連携・交流	4/6	16												16			
					12/23															33	
2	森の説明会	事務局		友の会活動ルールの徹底	交流会時	0												0			
3	森を守るボランティア体験	会員 一般	PJ輪番	観察センター共催 会の目的・ルール・マナー伝達と活動紹介 森のボランティア体験	偶数月	6	5	5	4	3	5							28			
					第3日曜	6	13	23	2	4	11								59		
4	横浜自然観察の森ボランティアまつり	一般		友の会の活動の紹介	10/26						6							6			
5	はじめてのちいさなしぜんかんさつ会	会員 一般	事務局	子ども向けの行事 (午前・午後2回開催)	3/22												3	3			
																		35	35		
6	ゴロスケカフェ	会員 一般	会員	来園者とのコミュニケーション	1・2・4 水曜日	5	3	3	8	2	3	2	3	3	2	3	3	50			
						18	9	5	14	6	3	24	17	6	12	12	16	142			
7	森の活動体験	会員	カワセミ FC	水棲生物保護	5/11 (日)		3											3			
					9/7 (日)					4									4		
					未定															14	14
					隔週 土曜日	4											4	8	7	23	
					1回/月	4	4	4	4	4	6	5	5	6	5	6	4			57	
12	定点カメラで動物調査 (調査編)	会員 一般	事務局	環境省モニタリングサイト1000 里地調査(中・大型ほ乳類)	5~11月 第2土曜日		5	4	5	3	5	4	4					30			
							0	0	0	0	0	0							0		
13	季節の森を歩こう	会員 一般	森の 案内人 ハンミョウ の会	11. 13時の2回開催 ガイドウォーク形式	第1日曜	5	4	2	3	3	4	2	4	4	4	5	3	43			
						19	47	23	25	29	9	4	24	26	31	35	6		278		
14	自然案内人講座	会員 一般		インタープリテーションの基本を 学び体験する	9月の2 日間を予定								4					4			
15	森の生き物講座	会員		外部講師を招き観察のポイント を学ぶ	3/21													14			
16	みんなでバードウォッチング	会員 一般	鳥のくら し発見隊	9~13時	第2日曜	11	15	11	12	11	9	12	12	13	9	9	12	136			
						52	48	26	43	5	32	40	10	47	51	30	26	410			
17	初めてのバードウォッチング	会員 一般		初心者対象 9~13時	12/6土									7				7			
																	15		15		
18	自然と遊ぼう	会員 一般	自然とあ そぼう	13. 14時の2回開催 ゲーム形式	第4土曜 12月は第2土	4	2	3	4	3	3	4	3	4	3	3	2	38			
						22	29	12	2	5	8	9	25	21	17	24	12	186			
19	森の絵本を楽しもう	会員 一般	森の絵本 づくりの会	読み聞かせ、絵本づくり	第3水曜	6	6	6	6	9	7	5	5	6	7	5	6	74			
						0	0	1	0	7	0	4	1	0	0	3	7	23			
20	森を守る作業体験	会員 一般	ZFC	森の保管理作業の体験 (下草刈り・炭焼き・間伐)	5・7・9 11・1・2月		10		10		18		12		18	18		86			
							10		10		3		15	24				72			
21	定点カメラで動物調査 (写真チェック編)	会員 一般	事務局	環境省モニタリングサイト1000 里地調査(中・大型ほ乳類)	6~10月 第2土曜日			4	5	3	5	4	4					25			
							4	3	6	10	5	10						38			
22	野鳥・蝶・トンボの写真展	会員	カワセミ	蝶・トンボ・野鳥の記録写真 の展示	4/6~ 5/6	10												10			
					常時	5	2	5	3	5	5	4	3	3	1	4	4	44			
24	飛翔野鳥写真展	会員		飛翔する野鳥写真で自然をアピール	9/14~ 10/13						5							5			
					第3土曜日	3	2	1	2		1	3	2	2	1	3	2	22			
25	畑と作物を作ろう	会員 一般	畑	畑作業を通して、自然と親しむ		0	0	3	1		0	0	0	0	0	0	4	8			
26	生きものを知る・守るシリーズ	会員 一般	事務局 調整)	にぎわいの普及啓発など	未定				31	24	20	17		37	28			8			
																				157	
27	ホテル ゲンちゃんへいちゃんの紙芝居劇場	事務局		観察マナーの向上	6月14・ 21・28			408										8			
																			408		
28	支 保全管理懇談会・検討会	会員	各PJ等	保全管理計画の活用・実践														93			
					29	支 援 アライグマ捕獲巡回	会員	会員	特定外来生物の駆除											117	
30	ネットワ ーク 鶴見川源流祭	会員	(事務局)	団体交流 TRネット	5/11		1											1			
					7/20				3									3			
32	スプリングフェア	事務局			4/11~13	20												20			
					10/18							5						5			
34	会 議 総会	会員	理事	4月6日(日)10:00~		16												16			
					35	理 事 会	会長	原則第3日曜 9:30~		8				11		11		10	40		
					36	定 例 会	事務局	奇数月第3日曜 13:00~		10		9		12		12		13		15	71
					37	会 報 発 送	会員	PJ 輪番	原則偶数月第3日曜(印刷を含む)	7		5		4		4		3		5	28
					38	利 用 推 進 会 議	理事 など	会長	行政・施設・友の会 の3者連携(6、2月頃)			10									12

総行事回数 311回 (友の会主催185回) 会員参加者 1201名 (延べ)  
一般参加者 友の会主催 1215名 センター主催 565名 共催 59名

# 2014年度プロジェクト活動実績

No.	PJ名	対象	活動項目	回数	活動日	月別参加者数												計	総計	
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1	カワセミファンクラブ (KFC)	定例 PJ内	トンボの調査・写真記録	148	原則毎週木曜	3	5	4	4	7	4	4	3	1	0	0	1	36	649	
2			野鳥の調査・写真記録		原則毎週土日	46	45	35	23	36	63	38	43	52	46	41	42	510		
3		活動	モニ1000里地チョウ類の調査	52	原則毎週木曜	3	5	4	4	7	4	4	3	1	0	0	1	36		
4		友の会 会員 行事	ハイド前環境整備	1	9/7						4							4		
5			トンボ池環境保全	1	5/11		3											3		
6		特別	一般	野鳥・チョウ・トンボ写真展	1	4/6~5/6	5	5										10		
7				「今月の野鳥」常設展示	12	常時	5	2	5	3	5	5	4	3	3	1	4	5		45
8				飛翔野鳥写真展	1	9/14~10/13						3	2							5
9	PJ- STRIX	定例 PJ内	フクロウの営巣環境の整備	0	4~8月	0	0	0	0	0	0						0	11		
10			0	9月						0							0			
11		活動	フクロウの生息調査	3	4~8月/12~3月	0	6	0	0	0				0	0	3	1		10	
12		随時 PJ内	保護活動支援	通年	随時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	
13	マニュアル作成		通年	随時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
14	雑木林ファンクラブ (ZFC)	定例 PJ内	にぎわいの森保全管理	104	毎月実施	119	85	91	96	100	127	78	83	116	94	101	95	1185	1492	
15			雑木林育成のための植樹																	
16			間伐材の利用(炭焼き)																	
17			間伐材の利用																	
18		活動	他団体との交流	4			10	7	6			5						28		
19			スプリングフェア参加・準備	4	フェア4/11~13	20												20		
20			森の家への製品納入	0																0
21			勉強会	4				5				5	5		5		0	20		
22			総会・運営会	11	第3土曜	15	15	12	13	16	18	13	14	18	17	16	0	167		
23			一般	一般利用者との交流	6	5・7・9・11・1・2月		10		10		10		3		15	24	72		
24	畑PJ	定例 PJ内	畑と作物作り	12	第1土曜	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	14	36		
		活動 一般	一般利用者との交流	11	第3土曜	3	2	1	2		1	3	2	2	1	3	2		22	
25	森の案内人ハンミョウの会	定例 活動	季節の森を歩こう	24	毎第1日曜日	5	4	2	3	3	4	2	4	4	4	5	3	43	61	
26			自然案内人講座	1									4					4		
27			森の生き物講習会	1													14	14		
28	鳥のくらし発見隊	一般 活動	みんなでバードウォッチング	12	第2日曜日	11	15	11	12	11	9	12	12	13	9	9	12	136	143	
			はじめてのバードウォッチング	1	12/6									7				7		
29	森の絵本づくりの会	一般 活動	森の絵本を楽しもう	12	毎第3水曜日(除8月)	6	6	6	6	9	7	5	5	6	7	5	6	74	74	
30	自然と遊ぼう	一般 活動	自然を大好きになってもらおう	24	毎第4土曜日	4	2	3	4	3	3	4	3	4	3	3	2	38	38	
31	事務局	定例 会員	モニ1000カエル類の調査	7	1~4月土曜	4									4	8	7	23	170	
32			モニ1000植物相調査	12	1回/月	4	4	4	4	4	6	5	5	6	5	6	4	57		
33			モニ1000中・大型ほ乳類調査	7	5~12月第2土曜		5	4	5	3	5	4	4					30		
34			園内稀少植物保護作業	12	月1回	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	5	4	5		51
35			選択草取り	2	8月					9										9
36	事務局	一般 活動	こども向け対象行事ボランティア	6	通年				1	1	2	2		1	1		8	11		
37			こども向け対象行事	1	3/22												3		3	
38			定点カメラで動物調査	6	6~11月第2土曜			4	3	6	10	5	10						38	38
39	事務局	定例 局内	会計・会員管理	12	毎月	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	13	109	
40			ゴロ報編集・発送	6	偶数月	9		7		6		6		5		7		40		
41			ホームページ	12	毎月	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12		
42			事務局(行事準備・センター調整等)	12	毎月	2	3	3	2	3	3	4	3	11	2	3	5	44		
総回数				545													合計	2832		

## 平成 27 年度 友の会事業計画

長期目標及び友の会の目的の達成に向けた事業を展開し、新中期事業計画（2013-2015）の実行に取り組みます。

### ■長期目標（2010-19）

自然の中で、人と生き物のステキな「出会い」「発見」「関わり」をサポートします。

知恵と力を出し合って、

- ・多くの人々に楽しみを伝えて、自然を愛する仲間を増やします（人へのサポート）
- ・生き物の多様な環境を守り育てる活動を広げます（自然へのサポート）

### ■中期事業計画（2013-15）

①情報発信を充実させます。（ボランティア活動拠点「ごろすけ館」の活用など）

②保全管理計画を活かします。

●年間行事予定 → 「行事計画」一覧表参照。

●会報発行 友の会と会員とをつなぐパイプ役として、今後も継続的な発行を目指します。

●インターネットホームページ・電子メールの活用

今年度も継続してホームページ、電子メールを活用し、次の事を行います。

1. ホームページを活用し、友の会の情報を発信し、より多くの人やグループ等に友の会の内容を伝えます。ブログを活用し、友の会活動の最新情報の発信を目指します。
2. メーリングリスト、電子メールを活用し、友の会内部の意見交換や情報交換を行い、会の運営の円滑化を図ります。定例会のメーリングリストにおいて、定例報告の受領、議題提案等を事前に受け付け、定例会の時間の短縮と効率化を継続して図ります。

ホームページ（[http://www.geocities.jp/yms\\_tomo/](http://www.geocities.jp/yms_tomo/)）

●ネットワーク

今年度もネットワークを大切にし、活動していきます。「いるか丘陵ネットワーク」「円海山緑地ネットワーク」「小網代野外活動調整会議」等、従来相互支援をしてきたネットワークを中心に、運営への協力、イベントの支援および参加等、積極的に活動を展開するとともに、人材と情報の交流を行います。また、森づくりにおける資源に関するネットワークや自然観察施設等が主催するPRイベントなど、行政機関や施設を介したネットワーク活動にも参加します。

<いるか丘陵ネットワーク> — 多摩三浦丘陵全体の大きなおさえとして —

多摩三浦丘陵群の大きな、そしてゆるやかなネットワークで、かながわトラスト運動への連携の事務局機能を担っています。

<NPO 小網代野外活動調整会議> — 三浦半島ゾーンの保全戦略にかかわるため —

県との協働事業を行っており、県の情報の入手先として大切なネットワーク。首都圏における保全すべき自然環境として抽出された25箇所のゾーンのうち「三浦半島ゾーン」（横浜の丘ゾーンではない）に横浜自然観察の森は含まれており、その事業を主導的に進める県の動きにも注目していきます。

<円海山緑地ネットワーク> — 足元の円海山緑地をかためるため —

横浜自然観察の森が進める「生きもののにぎわいのある森づくり」を近隣へ広めていくための受け皿として、また、つながった緑地の仲間の一員としても、友の会が事務局機能を担っていく意義があります。また、「横浜つながりの森」事業に対応していきます。

<行政機関や施設を介したネットワーク>

行事等への参加・協力：スプリングフェア、金沢区役所（金沢まつりいきいきフェスタ）など、可能な範囲で行事等に参加・協力します。

●観察の森事業への協力

施設ボランティアとして、可能な限り観察の森の事業運営に協力していくとともに、利用推進会議（年2回）を中心に横浜市環境創造局、公益財団法人日本野鳥の会、友の会の三者のパートナーシップの充実を図ります。施設と協働で人材育成システムの構築を引き続き検討していきます。

●プロジェクト活動予定 → 「PJ 活動計画」一覧表参照。

# 平成 27 年度 行事計画

## 事業方針

①情報発信を充実させます。(ボランティア活動拠点「ごろすけ館」の活用など)

②保全管理計画を活かします。

No.	行事名	対象	担当	趣旨・内容	開催日	月/日 調整欄												回数	
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1	森の交流会	会員	各PJ	会員の親睦、PJ間の連携・交流	4/5 12/23	5 総会									23 望年会				2
2	森の説明会	事務局		友の会活動ルールの徹底	交流会時	5									23				2
3	森を守るボランティア体験	一般	PJ輪番	観察センター共催 会の目的・ルール・マナー伝達と活動紹介 森のボランティア体験	偶数月 第3日曜 担当	19 鳥くら	21 野草		16 遊ぼう		18 ZFC		20 畑・絵本		21 KFC				6
4	横浜自然観察の森友の会秋まつり	事務局		友の会の活動の紹介	10/25						25								1
5	はじめてのちいさなしぜんかんまつ会	事務局		子ども向けの行事(午前午後2回)	3/													未定	2
6	ゴロスケカフェ	会員		来園者とのコミュニケーション	1・2・4 水曜日														35
7	トンボ池を掘ろう	会員	カワセミ FC	水棲生物保護	5/10 (日)		10												1
8	ハイド前の草刈り	事務局		調査・観察環境の整備	9/6 (日)					6									1
9	安全講習会	事務局		安全に関することを学ぶ	未定														1
10	アカガエル卵塊数調査	事務局		環境省モニタリングサイト1000 里地調査(カエル類)	隔週 土曜日	4 (2016年度)									24	7 21	7 21	5	
11	植物相調査	事務局	野草の 保護と調査	環境省モニタリングサイト1000 里地調査(植物相)	1回/月	7	5	9	7	4	8	6	10	8	5	9	8	12	
12	定点カメラで動物調査 (調査編)	事務局	定点カメラ	環境省モニタリングサイト1000 里地調査(中・大型ほ乳類)	5~11月 第2土曜日		9	13	11	8	12	10	14					7	
13	季節の森を歩こう	一般	森の 案内人 ハンミョウ の会	11・13時の2回開催 ガイドウォーク形式	第1日曜	5	3	7	5	2	6	4	1	6	10	7	6	24	
14	自然案内人講座	会員		インナープリテーションの基本を 学び体験する	10/31、 11/1							31	1					2	
15	森の生き物講座	会員		外部講師を招き観察のポイント を学ぶ	期日未定												未定	1	
16	みんなでバードウォッチング	一般	鳥のくら	9~13時	第2日曜	12	10	14	12	9	13	11	8	13	10	14	13	12	
17	初めてのバードウォッチング	事務局	し発見隊	初心者対象 9~14時	2/28												28	1	
18	自然と遊ぼう	一般	自然とあ そぼう	13・14時の2回開催 ゲーム形式	第4土曜 12月は第2土	25	23	27	25	22	26	24	28	12	23	27	26	24	
19	森の絵本を楽しもう	事務局	森の絵本 づくりの会	読み聞かせ、ミニ絵本づくり	第3水曜	15	20	17	15	26	16	21	18	16	20	17	16	12	
20	森の作業体験	一般	ZFC	森の保全管理作業の体験 (下草刈り・炭焼き・間伐)	5・7・9 11・1・3月		16 17		25		26		21		23		19	6	
21	定点カメラで動物調査 (写真チェック編)	事務局	定点	環境省モニタリングサイト1000 里地調査(中・大型ほ乳類)	6~10月 第2土曜日			13	11	8	12	10	14					6	
22	写真展「森の生きものたち」	事務局	カメラ	森の生きものたちを紹介	10/10~11/14							10~	14					1	
23	野鳥・蝶・トンボの写真展	事務局	カワセミ	蝶・トンボ・野鳥の記録写真 の展示	4/5~ 5/6	5 ~	6											1	
24	「四季の野鳥」写真常設展	事務局	FC	四季の野鳥写真季替わり展示	常時													4	
25	旅鳥写真展	事務局		森を通過する野鳥の写真で 季節・自然をアピール	10/4~ 11/3							4 ~	3					1	
26	畑と作物を作ろう	事務局	畑	畑作業を通して、自然と親しむ	第3土曜日	18	16	20	18		19	17	21	19	16	20	19	11	
27	子ども向けイベント	一般	会員 (事務局 調整)	知る守るシリーズ 親子バードウォッチング	7月~1月				26	8	12	3		5	16			6	
28	ホテル ゲンちゃんヘイちゃんの 紙芝居劇場	事務局		観察マナーの向上	6月 13・20・27		24						29		30			3	
29	保全管理懇談会・検討会	事務局	各PJ等	保全管理計画の活用・実践	未定													8	
30	アライグマ捕獲巡回	事務局	会員	特定外来生物の駆除	未定													80	
31	鶴見川源流祭	事務局		団体交流 TRネット	5/													1	
32	スプリングフェア	事務局	会員		4/10~12													3	
33	金沢まつりいきいきフェスタ	事務局		金沢区主催	10月													1	
34	総会	事務局	理事	4月5日(日)10:00~		5												1	
35	理事会	事務局	会長	原則第3日曜 9:30~			17						15		17		20	4	
36	定例会	事務局		奇数月第3日曜 13:00~			17		19		20		15		17		20	6	
37	会報発送	事務局	PJ 輪番	原則偶数月第3日曜(印刷を含む)		19		21		16		18		20		21		6	
38	利用推進会議	事務局	理事 など	行政・施設・友の会 の3者連携(6、2月頃)														2	

◆日程は変更になる場合があります。 総行事回数 305回 (友の会主催181回)

平成 27 年度 プロジェクト活動計画

No.	PJ名	対象	活動項目	趣旨・内容	回数	活動日	
1	カワセミファンクラブ (KFC)	定例活動 PJ内	トンボの調査・写真記録	林内・草原・林縁・道端・池縁等環境別調査	156	原則毎週木曜	
2			野鳥の調査・写真記録	記録、写真展準備		原則毎週土・日曜	
3			モニ1000里地チョウ類の調査	環境省モニタリングサイト1000里地調査。	52	原則毎週木曜	
4	(KFC) クラブ	友の会 行事	会員 ハイド環境整備	ハイド前草刈りなど	1	9/6(日)	
5			会員 トンボ池環境保全	トンボ池の除草・掘上	1	5/10(日)	
6		特別 一般	野鳥・チョウ・トンボ写真展	来園者へ森の自然をアピール	1	4/5~5/6	
7		特別 一般	「四季の野鳥」常設写真展	来園者へ森の自然をアピール	1	常時	
8	特別 一般	旅鳥写真展	来園者へ森の自然をアピール	1	10/4~11/33		
9	PJ- STRIX	定例活動 PJ内	フクロウの営巣環境の整備	繁殖状況の確認・パトロール	5	4月~8月	
10			巣箱架設・メンテナンス	1	9月		
11		随時 PJ内	フクロウの生息調査	生息調査・夜間の鳴き声を中心とした調査・自動記録による調査等	9	4月~8月/12月~3月	
12		随時 PJ内	保護活動支援	外部フクロウ類保護活動への支援	通年	随時	
13			マニュアル作成	フクロウの巣箱作成・架設マニュアルの作成			
14	雑木林ファンクラブ (ZFC)	定例活動 PJ内	にぎわいの森保全管理	観察の森保全計画の実行計画策定への参画と実施	104	通年 毎週 水曜・土曜日	
15			雑木林育成のための植樹	プランター等による苗作り、園内から種苗の採取等			
16			間伐材の利用(炭焼き)	本釜やドラム缶にて間伐材を炭焼き(クスギ、コナラ等)			
17			間伐材の利用	センター依頼品作成、薪作成・シイタケ栽培			
18			他団体との交流	行政等催行事協力、地元高校・団体等との地域交流	4	6, 7, 8, 11月	
19			スプリングフェア参加・準備	活動PR・間伐材グッズ頒布	3	フェア4月10~12日	
20			森の家への製品納入	森の家利用者へのPR(炭焼き副産物木酢液等の販売)	5		
21			勉強会	管理保全の知識技能習得(里山スキルアップ講習チェーンソー講習等)	12	毎月1回	
22			総会・運営会	PJ内意思決定(毎月開催)	12	第3土曜日	
23			一般	一般利用者との交流	観察の森保全活動の認知、参加者促進のため一般利用者向けのイベント(草刈り体験・炭焼き体験・間伐体験等)	6	5・7・9・11 1・3月
24	畑PJ	定例 会員	畑と作物作り	作物の育成と雑木林様環境整備	11	第1土曜・除く1月	
25		活動 一般	一般利用者との交流	畑作業を通して、自然と親しむ場の提供	11	第3土曜・除く8月	
26	森の案内人ハンミョウの会	定例活動 一般	季節の森を歩こう	ガイドツアー	24	毎第1日曜	
27			自然案内人講座	インタープリテーションの基本を学び体験する	1	10/31~11/1	
28			会員	森の生き物講習会	外部講師を招き観察のポイントを学ぶ	1	2~3月頃
29			みんなでバードウォッチング	バードウォッチング	12	毎第2日曜日	
30			はじめてのバードウォッチング	初心者限定のバードウォッチング講座	1	2/28	
31			森の絵本づくりの会	森の絵本を楽しもう	読み聞かせ、自然がテーマの絵本づくり	12	第3水曜日 8月のみ第4水曜
32			自然と遊ぼう	自然を大好きになってもらおう	五感を使って自然とふれあうゲーム形式	24	毎第4土曜日 (12月は第2土曜日)
33	野草の調査と保護	定例活動 PJ内	モニ1000植物相調査	環境省モニタリングサイト1000里地調査	12	月前半の火曜日	
34			園内稀少植物保護作業	稀少植物保護・外来種除去・観察資源の保護作業	12	月前半の木曜日	
35			選択草取り	生態園・カシの森の選択草取り	2	7月or8月	
36	定点カメラで動物調査	定例活動 会員	モニ1000中・大型ほ乳類調査	環境省モニタリングサイト1000里地調査	7	5~11月第2土曜日	
37			一般	定点カメラで動物調査	環境省モニタリングサイト1000里地調査(写真同定)	6	6~11月第2土曜日
38			特別	写真展「森の生きものたち」	森の生きものたちを紹介	1	10/10~11/14
39	事務局	定例活動 会員	モニ1000カエル類の調査	環境省モニタリングサイト1000里地調査	6	1~4月土曜日	
40			モニ1000人為的インパクト	環境省モニタリングサイト1000里地調査	2	12~3月	
41		一般	子ども向け対象行事ボランティア	センター主催子ども向け行事受け入れ	9	6月~1月	
42		はじめてのちいさなしぜんかんさつ会	友の会主催子ども向け行事の実施	2	3/未定		
43		事務局内	会計・会員管理	出納作業、会員名簿管理作業	12	毎月	
44		事務局内	ゴロ報編集・発送	会報編集作業、会報印刷	6	偶数月	
45		事務局内	ホームページ	ホームページ更新作業、ブログの充実	12	毎月	
46		事務局(行事準備・センター調整等)	友の会の円滑な活動の推進		12		

合計 572 回 + α

◆ 編集 ◆ 公益財団法人 日本野鳥の会 施設運営支援室

出典：7 ページの図：ウェブサイト「多摩三浦丘陵はいるかのかたち」

・ <http://iruka-land.net/>

34～43 ページ：横浜自然観察の森友の会 2015 年度総会資料より転載

表紙イラスト：齋藤仁志

横浜自然観察の森事業概要書 第26号

横浜市環境創造局みどりアップ推進課  
公益財団法人 日本野鳥の会

平成27年 6月発行

〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
TEL 045-671-2624 FAX 045-224-6627

この印刷物は再生紙（古紙混入率100%）を使用しています。

★ 無断転載を禁じます。